

令和5年度  
シラバス  
(教授予定表)

島根県歯科技術専門学校

歯科衛生士科



# 島根県歯科技術専門学校

## 教育理念

誠実で人を思いやる心を持ち他職種と連携・協働することにより、人びとの生きる力を支え  
地域社会に貢献できる歯科衛生士・歯科技工士を育成する。

## 教育目標

### 歯科衛生士科

1. 正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。
2. 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。
3. 他職種と連携・協働するための資質を養う。
4. 人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。
5. 生涯学習の態度を養う。

### 歯科技工士科

1. チーム医療に参画できる高度な専門知識・技能を培う。
2. 高度化する歯科医療に対応して公衆衛生の普及向上を図り、地域社会の福祉増進に貢献する態度を養う。
3. 高い倫理観と豊かな人間性を持ち、歯科技工を通じてチーム医療の担い手として協調、協働できる資質を養う。
4. 生涯にわたり歯科医学の最新の知識と技術を学び続ける意欲と能力を育む。



# 目 次

科目名	ページ
生物学	1
物理化学の基礎	2
心理学	3
日本語理解・表現基礎	4
英語 I (英会話)	5
英語 II	6
人体の解剖・生理A	7
人体の解剖・生理B	8
口腔の解剖	9
歯の解剖	10
歯・口腔の生理	11
組織・発生	12
生化学 I	13
生化学 II	14
栄養学	15
病理学	16
口腔病理学	17
薬理学	18
歯科薬理学	19
微生物学	20
口腔微生物学	21
口腔衛生学 I	22
口腔衛生学 II	23
衛生・公衆衛生学	24
衛生行政・社会福祉	25
歯科衛生学総論・医療倫理	26、27
歯科臨床概論	28
保存修復学	29
歯内療法学	30
歯周治療学 I	31
歯周治療学 II	32

科目名	ページ
歯科補綴学	33
歯科矯正学	34
口腔外科学	35
小児歯科学	36
障がい者歯科学	37
高齢者歯科学	38
歯科放射線学	39
摂食嚥下リハビリテーション	40
臨床検査	41
基礎介護技術	42~44
教育学	45
臨床医学	46
医療接遇	47
患者理解	48
歯周病予防処置 I	49、50
歯周病予防処置 II	51~53
歯周病予防処置 III	54、55
う蝕予防処置	56
歯科診療補助 I	57~59
歯科診療補助 II	60~62
歯科診療補助 III	63、64
社会保険業務	65
歯科保健指導 I	66~68
歯科保健指導 II	69~72
歯科保健指導 III	73
歯科衛生総説 I	74
歯科衛生総説 II	75
歯科衛生総説 III	76
臨地・臨床実習 II	77、78
臨地・臨床実習 III	79、80

## 学科目と単位数

分野	教育内容	学 科 目	時間数				単位	
			1年	2年	3年	合計		
基礎分野	科学的思考の基盤	生 物 学	30			30	2	
		物 理 化 学 の 基 礎	20			20	1	
	人間と社会の理解	心 理 学	30			30	2	
		日 本 語 理 解 ・ 表 現 基 礎	30			30	2	
		英 語 I ( 英 会 話 )	30			30	2	
		英 語 II		30		30	2	
専門基礎分野	人体（歯と口腔を除く）の構造と機能 歯・口腔の構造と機能	人 体 の 解 剖 ・ 生 理 A	20			20	1	
		人 体 の 解 剖 ・ 生 理 B	20			20	1	
		口 腔 の 解 剖	30			30	1	
		歯 の 解 剖	20			20	1	
		歯 ・ 口 腔 の 生 理	30			30	1	
		組 織 ・ 発 生	24			24	1	
		生 化 学 I	16			16	1	
		生 化 学 II		16		16	1	
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄 養 学	30			30	2	
		病 理 学	20			20	1	
		口 腔 病 理 学	20			20	1	
		薬 理 学	20			20	1	
		歯 科 薬 理 学		16		16	1	
		微 生 物 学	16			16	1	
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会のしくみ	口 腔 微 生 物 学	16			16	1	
		口 腔 衛 生 学 I	40			40	1	
		口 腔 衛 生 学 II	30			30	2	
		衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	30			30	2	
		衛 生 行 政 ・ 社 会 福 祉		30		30	2	
	専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論・医療倫理	30			30	2
		臨床歯科医学	歯 科 臨 床 概 論	16			16	1
保 存 修 復 学				20		20	1	
歯 内 療 法 学				20		20	1	
歯 周 治 療 学 I			20			20	1	
歯 周 治 療 学 II				20		20	1	
歯 科 補 綴 学				20		20	1	
歯 科 矯 正 学				30		30	1	
口 腔 外 科 学				30		30	1	
小 児 歯 科 学				20		20	1	
障 が い 者 歯 科 学				20		20	1	
高 齢 者 歯 科 学				30		30	1	
歯 科 放 射 線 学			16		16	1		
歯科予防処置論		歯 周 病 予 防 処 置 I	120			120	2	
		実 技					1	
		歯 周 病 予 防 処 置 II		150		150	2	
		実 技					1	
歯科保健指導論		歯 周 病 予 防 処 置 III			40	40	1	
		う 蝕 予 防 処 置	30			30	1	
		歯 科 保 健 指 導 I	80			80	2	
		歯 科 保 健 指 導 II		200		200	2	
		実 技					1	
歯科診療補助論		歯 科 保 健 指 導 III			40	40	1	
		摂食嚥下リハビリテーション		30		30	1	
		歯 科 診 療 補 助 I	90			90	1	
		実 技					1	
		歯 科 診 療 補 助 II		140		140	2	
		実 技					1	
		歯 科 診 療 補 助 III			40	40	1	
		臨 床 検 査		16		16	1	
臨地実習（臨床実習を含む）	社 会 保 険 業 務		30		30	1		
	基 礎 介 護 技 術		40		40	1		
臨地実習（臨床実習を含む）	臨 地 ・ 臨 床 実 習		180	720	900	20		
必修分野	基礎教養講座	教 育 学	30			30	2	
		臨 床 医 学		16		16	1	
		医 療 接 遇	24			24	1	
		患 者 理 解	16			16	1	
		歯 科 衛 生 総 説 I	30			30	1	
		歯 科 衛 生 総 説 II			16	16	1	
		歯 科 衛 生 総 説 III			40	40	1	
合計			1,008	1,120	896	3,024	100	

各学科目において「学習」の時間および自宅学習により予習・復習を行いましょ。

<b>科目名</b>	生物学		
<b>講師名</b>	中山春江	<b>実務経験とその関連資格</b> 元高校教諭（高2 普通科）	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	授業を通して「命」や「生きること」の意味について考える。 基本的な能力を伸ばし、身近で最新の生物学的ニュースに関する理解を深める。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「生物学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<p>1回 生命の特徴 細胞の構造と機能 ウィルス</p> <p>2回 生命を作る物質</p> <p>3回 生命の寿命 テロメア</p> <p>4回 生殖と発生</p> <p>5回 生殖補助医療と生命倫理</p> <p>6回 クローン生物と生命倫理</p> <p>7回 ヒトの遺伝 ゲノムと遺伝子</p> <p>8回 遺伝子組み換え食品 ゲノム編集食品の安全性</p> <p>9回 神経系 脳の構造と機能</p> <p>10回 脳死 臓器移植と生命倫理</p> <p>11回 ES細胞とips細胞</p> <p>12回 生体防御</p> <p>13回 免疫 アレルギー</p> <p>14回 生態系 環境問題 地球温暖化</p> <p>15回 人類の未来</p>		
<b>授業方法</b>	講義・ディスカッション		
<b>進め方</b>	1回ごとに授業内容の方向性を示し、ポイントをまとめる。 プリントの資料をもとにレポート提出によって考える力を養う。 内容により学生の意見発表や意見交換の場を設定する。		
<b>評価方法</b>	出席率・授業態度・レポート・定期試験をもとに総合評価する。		

科目名	物理化学の基礎																																										
講師名	専任	実務経験とその関連資格 元高校教諭（高1理科）																																									
授業時期	1年生 前期	単位数 1	時間数 80分×10回																																								
教育目標	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。																																										
授業目的	歯科に関係する物理化学の基本的知識を身につける。																																										
使用テキスト	プリント配布																																										
授業内容	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>物質の構造（1）</td> <td>元素と周期表</td> <td>原子の構造</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td>原子の構造</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td>イオン</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>物質の構造（2）</td> <td>化学結合</td> <td>化学式</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td> <td>〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>物質の変化（1）</td> <td>化学反応式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>物質の変化（2）</td> <td>酸と塩基</td> <td>pH</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>物質の状態</td> <td>溶液の濃度（%とppm）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td></td> <td>〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			①	物質の構造（1）	元素と周期表	原子の構造	②			原子の構造	③			イオン	④	物質の構造（2）	化学結合	化学式	⑤		〃		⑥	物質の変化（1）	化学反応式		⑦	物質の変化（2）	酸と塩基	pH	⑧	物質の状態	溶液の濃度（%とppm）		⑨		〃		⑩	まとめ		
①	物質の構造（1）	元素と周期表	原子の構造																																								
②			原子の構造																																								
③			イオン																																								
④	物質の構造（2）	化学結合	化学式																																								
⑤		〃																																									
⑥	物質の変化（1）	化学反応式																																									
⑦	物質の変化（2）	酸と塩基	pH																																								
⑧	物質の状態	溶液の濃度（%とppm）																																									
⑨		〃																																									
⑩	まとめ																																										
授業方法	講義																																										
進め方	プリントに沿って行なう																																										
評価方法	期末試験																																										



<b>科目名</b>	心理学		
<b>講師名</b>	土江 正司	<b>実務経験とその関連資格</b> 現役臨床心理士	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 他職種と連携・協働するための資質を養う。 人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。		
<b>授業目的</b>	一般的な心理学の知識の習得にとどまらず、歯科衛生士が患者との信頼関係に基づく医療サービスを提供する能力、及び歯科医師や他の医療職種の人達と円滑な人間関係を保つ能力の習得を目的とする。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「心理学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>			
	<b>1回目</b>	<b>: 見る・聞く・感じる心 /</b>	出会いのワーク1
	<b>2回目</b>	<b>: 学ぶ・覚える心 /</b>	出会いのワーク2
	<b>3回目</b>	<b>: やる気の心理 /</b>	出会いのワーク3
	<b>4回目</b>	<b>: 喜怒哀楽の心 /</b>	出会いのワーク4
	<b>5回目</b>	<b>: その人らしさの心理 /</b>	出会いのワーク5
	<b>6回目</b>	<b>: かしこさの心理 /</b>	自己を知るワーク1
	<b>7回目</b>	<b>: 考える心 /</b>	自己を知るワーク2
	<b>8回目</b>	<b>: 発達する心(1) /</b>	自己を知るワーク3
	<b>9回目</b>	<b>: 発達する心(2) /</b>	自己を知るワーク4
	<b>10回目</b>	<b>: 人と関わる心理 /</b>	自己を知るワーク5
	<b>11回目</b>	<b>: 人と集う心 /</b>	自己と付き合うワーク1
	<b>12回目</b>	<b>: 健康な心 /</b>	自己と付き合うワーク2
	<b>13回目</b>	<b>: カウンセリングの心 /</b>	自己と付き合うワーク3
	<b>14回目</b>	<b>: 思いを伝えあう心 /</b>	自己と付き合うワーク4
	<b>15回目</b>	<b>: 心理学の歩みと研究法 /</b>	自己と付き合うワーク5
<b>授業方法</b>	講義・演習・レポート		
<b>進め方</b>	各回とも、講義と演習を行い、授業の最後にレポートを提出する。		
<b>評価方法</b>	出席およびレポートによって評価する。		

<b>科目名</b>	日本語理解・表現基礎		
<b>講師名</b>	河角 静	<b>実務経験とその関連資格</b> 元高校教諭（高1 普国語）	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 他職種と連携・協働するための資質を養う。		
<b>授業目的</b>	1. 正しい文章を書くための基礎、ことばの力を身につける。 2. 自己表現の態度や思考力を養い、ものの見方・感じ方・言語感覚を豊かにする。 3. 多くの文章に触れたり、また文章を書くことで国語力を身につけ、実用的な文章が書けるようにする。		
<b>使用テキスト</b>	「テスト式 国語常識の総演習」修訂三版増補版（京都書房） 新聞で力をつける「コラムと論説」演習ノート5集（京都書房）		
<b>授業内容</b>			
1	I 文章の基礎		
	① 漢字を読む力・書く力 ②表現力・表記 ③文法の力 ④韻文		
2	II 文章の表現・構成（段落・論旨）		
3	III 総合学習と実践	テスト式	「国語常識の総演習」の活用
4	〃		
5	〃		
6	〃		
7	〃		
8	〃		
9	〃		
10	〃		
11	〃		
12	〃		
13	IV 論説文・短い意見・感想文などについて		
14	〃		
15	まとめ		
<b>授業方法</b>	講義 ・ 演習		
<b>進め方</b>	基本的に講義と演習・実践で進める。正しい文章を書くための注意事項、効果的なあり方、どのように書いたらよいかなど、実践的に学習する形で進めていきたい。		
<b>評価方法</b>	定期試験 ・ 課題文章		

<b>科目名</b>	英語 I (英会話)		
<b>講師名</b>	小豆澤 美穂	<b>実務経験とその関連資格</b> 島根大学 英語講師	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 他職種と連携・協働するための資質を養う。		
<b>授業目的</b>	歯科分野における、専門家としての英語実用能力（コミュニケーションおよび、語彙）の構築。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯科英語」（医歯薬出版）		
<b>授業内容</b>	<p>1 オリエンテーション 英語による自己紹介</p> <p>2 Unit 1&amp;2 小テスト1</p> <p>3 Unit 3&amp;4 小テスト2</p> <p>4 Unit 5&amp;6 小テスト3</p> <p>5 Unit 7 小テスト4</p> <p>6 Unit 8&amp;9 小テスト5</p> <p>7 Unit 10 小テスト6</p> <p>8 中間試験 (Unit 1 から 10)</p> <p>9 ビデオ鑑賞 意見交換 作文</p> <p>10 Unit 11 小テスト7</p> <p>11 Unit 12&amp;13 小テスト8</p> <p>12 Unit 14&amp;15 小テスト9</p> <p>13 Unit 16&amp;17 小テスト10</p> <p>14 ビデオ鑑賞 意見交換 作文</p> <p>15 期末試験</p>		
<b>授業方法</b>	講義・演習		
<b>進め方</b>	シラバスに沿って毎回、次回取り上げるユニット（単元）の予習をしておくこと（単語の日本語訳、本文理解）。授業では Exercise やペア・ワークを行う。実践的な英会話力を高めるため、授業では適宜アウトプット（発語）をおこなうため、自宅でも声に出して練習しておく。 授業の最初に、事前学習しておいたユニットに関する小テストを行う。		
<b>評価方法</b>	平常点(出席点・授業への取り組み態度) 20% 小テスト 20%、中間試験 30%、期末試験 30%		

<b>科目名</b>	英語Ⅱ		
<b>講師名</b>	福田 妙子	<b>実務経験とその関連資格</b> 英語教諭（高2 普英語）	
<b>授業時期</b>	2年生 後期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 他職種と連携・協働するための資質を養う。		
<b>授業目的</b>	基礎力を強化しつつ、英文読解力を養う。 歯科関連文献を精読し、内容を理解する。		
<b>使用テキスト</b>	最新歯科衛生士教本「歯科英語」（医歯薬出版）		

### 授業内容

1~13	Part 1.	Reading
	Part 2.	Vocabulary
	Part 3.	歯科衛生士の仕事
14	復習、試験対策	
15	試験	

<b>授業方法</b>	講義・演習
<b>進め方</b>	① テキストの精読 ② 問題演習（基礎英語力を強化する。）
<b>評価方法</b>	① 試験 ② 出席、授業態度、意欲 ③ 提出物 ④ 演習問題

<b>科目名</b>	人体の解剖・生理 A		
<b>講師名</b>	清水 崇史	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	人体の構造と機能を理解する。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<p>序章                   ・解剖学、生理学で学ぶこと</p> <p>Ⅱ編-1章               ・骨格系</p> <p>Ⅱ編-2章               ・筋と運動</p> <p>Ⅱ編-3章               ・消化、吸収</p> <p>Ⅱ編-4章               ・循環</p>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書を読みながら、図を用いて学習する。		
<b>評価方法</b>	期末テスト		

<b>科目名</b>	人体の解剖・生理 B		
<b>講師名</b>	未森 一彦	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	生体の構造と機能を知ることにより生命現象に対する興味を促す。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<p style="text-align: center;">           II編- 5章 ・感覚            II編- 6章 ・神経系            II編- 7章 ・呼吸            II編- 8章 ・腎機能と排尿            II編- 9章 ・内分泌            II編- 10章 ・生殖            II編- 11章 ・体温         </p>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書		
<b>評価方法</b>	試験 その他		

<b>科目名</b>	口腔の解剖		
<b>講師名</b>	渡邊 和寛	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	歯科衛生士として必要な口腔周辺の構造を習得する。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔とは</li> <li>2. 舌</li> <li>3. 唾液腺</li> <li>4. 小テスト</li> <li>5. 骨</li> <li>6. 骨</li> <li>7. 骨</li> <li>8. 筋肉</li> <li>9. 筋肉</li> <li>10. 小テスト</li> <li>11. 脈管</li> <li>12. 神経</li> <li>13. 神経</li> <li>14. 神経</li> <li>15. 小テスト 第1回～14回のまとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書などを使用した講義		
<b>評価方法</b>	出席率・授業態度・小テスト・定期テストから総合評価する。		

科目名	歯の解剖		
講師名	江角 保弘	実務経験とその関連資格 歯科医師（開業医）	
授業時期	1年生 前期	単位数	1 時間数 80分×10回
教育目標	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
授業目的	膨大な解剖学の内容のうち、歯科衛生士にとって必要な部分をピックアップして、わかりやすく解説していきたい。		
使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)		

### 授業内容

回数	内容	
1.	歯の概論 1. 歯の定義 2. 歯の起源 3. 歯の機能	4. 歯の種類と名称 5. 歯の記号
2.	歯の概論 1. 歯式 2. 歯の用語 3. 歯の形態	4. 歯の表徴 5. 歯の外観と内観
3.	1) 永久歯の特徴	上下顎前歯の形態的特徴
4.	2) 永久歯の特徴	上下顎前歯の形態的特徴
5.	3) 永久歯の特徴	上下顎前歯のまとめ
6.	4) 永久歯の特徴	上下顎小臼歯の形態的特徴
7.	5) 永久歯の特徴	上下顎小臼歯の形態的特徴
8.	6) 永久歯の特徴 (1) 異常歯	上下顎大臼歯の形態的特徴 (2) 歯列と咬合
9.	7) 永久歯の特徴 (1) 異常歯	上下顎大臼歯の形態的特徴
10.	8) 乳歯の特徴 ・乳歯の形態学的特徴 ・乳歯と永久歯の比較	

授業方法	講義
進め方	模型を見ながら、教科書に沿って行う。
評価方法	定期試験



<b>科目名</b>	歯・口腔の生理		
<b>講師名</b>	井原 大輔	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	口腔生理学の講義を通じて、口腔と全身の機能の密接な関係を理解するとともに、口腔疾患を理解するための基礎知識を養うことを目的とする。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔生理学とは</li> <li>2. 歯と歯周組織の生理</li> <li>3. 咬合と顎運動①</li> <li>4. 咬合と顎運動②</li> <li>5. 咀嚼</li> <li>6. 摂食・嚥下①</li> <li>7. 摂食・嚥下②</li> <li>8. 吸啜・嘔吐・口呼吸</li> <li>9. 小テスト</li> <li>10. 唾液腺と唾液①</li> <li>11. 唾液腺と唾液②</li> <li>12. 口腔感覚</li> <li>13. 味覚と嗅覚</li> <li>14. 発声</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書に沿いながら、パワーポイント等を使用して講義する。		
<b>評価方法</b>	選択・記述形式問題による試験		

<b>科目名</b>	組織・発生		
<b>講師名</b>	中本 紀道	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×12回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	1. 細胞と組織：各組織の分類と特徴を理解する。 2. 発生：人体、特に顎顔面、歯および歯周組織の形成過程を理解する。 3. 口腔組織：口腔組織について、その特徴、性質を理解する。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能 1 「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ人体歯・口腔の構造と機能 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>			
	1	細胞	細胞の構造・細胞分裂
	2	組織	上皮組織・筋組織
	3		支持組織（結合組織・軟骨組織・骨組織・血液とリンパ）
	4		皮膚・粘膜・口腔粘膜
	5	発生	染色体・受精と着床・胚葉の形成・胎児の成長と発育
	6		顔面と口腔の発生
	7		歯と歯周組織の発生
	8		歯および歯周組織の構造と機能 エナメル質
	9		象牙質
	10		歯髄
	11		セメント質・歯根膜
	12		歯肉・歯槽骨
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書と講義用プリントを使用して授業をすすめる。		
<b>評価方法</b>	筆記試験		

<b>科目名</b>	生化学 I		
<b>講師名</b>	大島 朗伸	<b>実務経験とその関連資格</b> 元島根大学生物資源科学部准教授（理学博士）	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	生命現象を化学的な側面から研究する分野である生化学の基礎および、歯科衛生士として関わる必要のある歯、歯周組織、唾液、プラークなどの成分やそこで生じている事象を生化学的に理解することを目的とする。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2「栄養と代謝」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞の役割、生体における水</li> <li>2) 生体構成成分と栄養素</li> <li>3) 生体における化学反応</li> <li>4) 糖質の代謝</li> <li>5) 脂質の代謝</li> <li>6) たんぱく質とアミノ酸の代謝</li> <li>7) 生体における恒常性の維持</li> <li>8) まとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	テキストに沿って講義を行うと共に、適宜プリントを配布する。		
<b>評価方法</b>	出席率。レポート及び筆記試験の結果から総合的に判断する。		

<b>科目名</b>	生化学Ⅱ		
<b>講師名</b>	大島 朗伸	<b>実務経験とその関連資格</b> 元島根大学生物資源科学部准教授（理学博士）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	生命現象を化学的な側面から研究する分野である生化学の基礎および、歯科衛生士として関わる必要のある歯、歯周組織、唾液、プラークなどの成分やそこで生じている事象を生化学的に理解することを目的とする。		
<b>使用テキスト</b>	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2「栄養と代謝」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 歯と歯周組織、結合組織</li> <li>2) 歯</li> <li>3) 石灰化の仕組み、歯の脱灰と再石灰化</li> <li>4) 唾液の生化学</li> <li>5) プラークの生物活性</li> <li>6) プラークによるう蝕発症機構</li> <li>7) プラークによる口臭及び歯周疾患発症機構</li> <li>8) まとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	テキストに沿って講義を行うと共に、適宜プリントを配布する。		
<b>評価方法</b>	出席率。レポート及び筆記試験の結果から総合的に判断する。		

<b>科目名</b>	栄養学		
<b>講師名</b>	伊藤 孝子	<b>実務経験とその関連資格</b> 現役管理栄養士	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	1. 歯科衛生士の業務活動の一環である栄養指導を系統的、科学的かつ効果的に行えるよう栄養学の基礎を学ぶ。 2. 食生活の現状を知り、栄養指導の必要性をともに考える。 3. 学生自らが健康的な生活を送るための食事を知り、実行できる。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2「栄養と代謝」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養素の基礎知識：栄養と食生活</li> <li>2 栄養素の基礎知識：栄養素の消化・吸収</li> <li>3 食事摂取基準：エネルギー必要量・基礎代謝</li> <li>4 食事摂取基準：日本人の食事摂取基準</li> <li>5 栄養素の働き：糖質の栄養的意味</li> <li>6 栄養素の働き：タンパク質の栄養的意味</li> <li>7 栄養素の働き：ビタミンの栄養的意味・ミネラルの栄養的意味</li> <li>8 栄養素の働き：水の栄養的意味・食物繊維の栄養的意味</li> <li>9 食生活と健康：国民の健康と栄養の現状</li> <li>10 食生活と健康：望ましい食生活</li> <li>11 食生活と健康：ライフステージ別の栄養と調理（成長期）</li> <li>12 食生活と健康：ライフステージ別の栄養と調理（成人期）</li> <li>13 食生活と健康：ライフステージ別の栄養と調理（高齢期）</li> <li>14 食べ物と健康：食品の種類と分類</li> <li>15 食べ物と健康：食べ物の特性</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義・演習・その他（グループワーク）		
<b>進め方</b>	教科書に沿って講義を進める。必要に応じて適宜プリント配布をする。地域での教室紹介や関わりを取り入れ、ともに考える。自分の食生活の振り返りを随時取り入れる。		
<b>評価方法</b>	定期試験 8割、出席日数・授業態度・意欲・提出物 2割で評価。		

<b>科目名</b>	病理学																																
<b>講師名</b>	吉田 崇	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）																															
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回																														
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。																																
<b>授業目的</b>	病理学総論について内容を熟知する																																
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版)																																
<b>授業内容</b>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>1</td> <td>1章</td> <td>病理学序論と病因論</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2章</td> <td>遺伝性疾患と奇形</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3章</td> <td>循環障害</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4章</td> <td>代謝障害と退行性病変</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4章</td> <td>代謝障害と退行性病変</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5章</td> <td>増殖と修復</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6章</td> <td>炎症と免疫応答異常</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6章</td> <td>炎症と免疫応答異常</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>7章</td> <td>腫瘍</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>小テスト</td> </tr> </table>			1	1章	病理学序論と病因論	2	2章	遺伝性疾患と奇形	3	3章	循環障害	4	4章	代謝障害と退行性病変	5	4章	代謝障害と退行性病変	6	5章	増殖と修復	7	6章	炎症と免疫応答異常	8	6章	炎症と免疫応答異常	9	7章	腫瘍	10		小テスト
1	1章	病理学序論と病因論																															
2	2章	遺伝性疾患と奇形																															
3	3章	循環障害																															
4	4章	代謝障害と退行性病変																															
5	4章	代謝障害と退行性病変																															
6	5章	増殖と修復																															
7	6章	炎症と免疫応答異常																															
8	6章	炎症と免疫応答異常																															
9	7章	腫瘍																															
10		小テスト																															
<b>授業方法</b>	講義メモとPW																																
<b>進め方</b>	教科書に従う。																																
<b>評価方法</b>	学期末試験																																

科目名	口腔病理学		
講師名	吉田 瑞紀	実務経験とその関連資格 歯科医師（勤務医）	
授業時期	1年生 後期	単位数 1	時間数 80分×10回
教育目標	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
授業目的	口腔という限局された狭い領域にも多様な異常と病気が発症することを知る。		
使用テキスト	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1「病理学・口腔病理学」（医歯薬出版）		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 歯の発育異常</li> <li>2 歯の損傷と着色・付着物</li> <li>3 う蝕</li> <li>4 象牙質・歯髄複合体の病態</li> <li>5 歯周組織の病態</li> <li>6 口腔粘膜の病変</li> <li>7 口腔領域の嚢胞と腫瘍</li> <li>8 口腔癌</li> <li>9 顎骨の病変</li> <li>10 唾液腺の病変</li> <li>11 口腔領域の奇形</li> <li>12 口腔組織の加齢変化</li> </ol>		
授業方法	講義		
進め方	教科書に準じて進め、スライドや配布資料で補足を行う。 授業後に小テストを課す。		
評価方法	定期試験		

<b>科目名</b>	薬理学		
<b>講師名</b>	田中 良男	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×14回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	生化学、微生物学、病理学などがあり、これらの科目を包括した総合的な専門基礎科目であると同時に、歯科臨床科目とも密接な関連があります。近年、歯科医院に来院する高齢者は複数の疾患を有しているため、多くの薬物を服用していることがあります。そのため、全身疾患およびその治療薬についての知識が必要です。薬理学の講義では一般薬理として全身に係る薬物の作用について講義します。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3「薬理学」		
<b>授業内容</b>			
1 総論	薬物に関わる法律 体内での薬物の運命、受容体、薬物の副作用		
2 中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬とアルコール 催眠薬、向精神薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬		
3 自律神経系に作用する薬物	交感神経に作用する薬物 副交感神経に作用する薬物		
4 局所麻酔薬	歯科用局所麻酔薬 血管収縮薬		
5 呼吸・循環系、血液に作用する薬物	降圧薬、抗不整脈薬、抗血栓薬、止血薬		
6 抗炎症薬と解熱鎮痛薬	ステロイド性抗炎症薬と非ステロイド性抗炎症薬 解熱鎮痛薬、抗アレルギー薬		
7 ビタミンとホルモン、特に骨代謝について	カルシウム代謝に関与する活性型ビタミン D3、PTH、CT の作用について 骨吸収抑制剤ビスホスホネートと BRONJ		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書、プリントを用いて講義します。		
<b>評価方法</b>	期末試験にて評価します。		



<b>科目名</b>	歯科薬理学		
<b>講師名</b>	井上 幸夫	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	歯科臨床で用いられる薬物の作用機序等基本知識を理解する。 歯科治療に用いられる抗感染症薬や消毒薬の作用機序など基本を理解し、 う蝕予防薬・歯内療法薬・歯周疾患治療薬などについても知識を習得する。		
<b>使用テキスト</b>	最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3「薬理学」第2版（医歯薬出版）		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抗感染症薬</li> <li>2. 消毒に使用する薬</li> <li>3. う蝕予防薬</li> <li>4. 歯内療法薬</li> <li>5. 歯周疾患治療薬</li> <li>6. 顎・口腔粘膜疾患と薬</li> <li>7. 漢方医学と薬物</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書、プリント、ビデオ動画を使用して講義する。		
<b>評価方法</b>	出欠状況・授業態度・期末試験等で総合的に評価する。		

<b>科目名</b>	微生物学		
<b>講師名</b>	野村 美奈子	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	<p>微生物学とは、微生物が如何にしてヒトに感染し、病気（感染症）をおこすかということを明らかにする学問である。感染症の成り立ちを知るには、微生物の病原性について理解することはもちろん、病気を起こす生体の防御能についても知る必要がある。</p> <p>微生物学の授業では、微生物とその病原性、さらには宿主防御機構と免疫についての知識を修得することを目的とする。</p>		
<b>使用テキスト</b>	<p>歯科衛生学シリーズ</p> <p>疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2「微生物学」(医歯薬出版)</p>		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 疾病と微生物</li> <li>2 微生物の病原性（細菌Ⅰ）</li> <li>3 微生物の病原性（細菌Ⅱ）</li> <li>4 微生物の病原性（ウイルスなど）</li> <li>5 宿主防御機構と免疫（宿主防御機構）</li> <li>6 宿主防御機構と免疫（免疫機構）</li> <li>7 宿主防御機構と免疫（液性免疫）</li> <li>8 宿主防御機構と免疫（細胞性免疫）</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	テキストに沿って講義する。		
<b>評価方法</b>	出欠状況、授業態度、試験等で総合的に評価する。		

<b>科目名</b>	口腔微生物学		
<b>講師名</b>	影山 直樹	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	口腔内の細菌とその原因による口腔内の感染症について理解し、さらに化学療法について知識を習得する。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2「微生物学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 口腔細菌叢</li> <li>2 デンタルプラーク</li> <li>3 う蝕</li> <li>4 歯周病</li> <li>5 その他の口腔感染症</li> <li>6 化学療法</li> <li>7 抗菌スペクトル</li> <li>8 院内感染対策と滅菌・消毒</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書にもとづくスライド資料による解説		
<b>評価方法</b>	筆記試験		

<b>科目名</b>	口腔衛生学 I		
<b>講師名</b>	専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×20回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	年齢ごとの口腔内の特徴を理解するため、歯科疾患実態調査の読み取りを行う。歯や口腔の健康を保持増進するために必要な口腔清掃用具の名称、使用方法を習得する。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 「保健生態学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<p>① 5/30 口腔衛生学総論：歯・口の健康と予防</p> <p>② 6/1 う蝕と歯周病の予防法：各種歯ブラシについて（成人用、乳幼児用、電動歯ブラシ、義歯用歯ブラシ）</p> <p>③ 6/6 う蝕と歯周病の予防法：各種歯ブラシ（音波ブラシ）：モリタ講習会（実習）</p> <p>④ 6/8 う蝕と歯種病の予防法：補助的清掃用具（デンタルフロス、歯間ブラシ）</p> <p>⑤ 6/15 う蝕と歯周病の予防法：補助的清掃用具（デンタルフロス、歯間ブラシ）（実習）</p> <p>⑥ 6/21 う蝕と歯周病の予防法：補助的清掃用具（歯間ブラシ、ポイントブラシ）</p> <p>⑦ 6/22 う蝕と歯周病の予防法：その他の補助的清掃用具（粘膜ブラシ、舌ブラシなど）</p> <p>⑧ 6/27 う蝕と歯周病の予防法：歯磨剤</p> <p>⑨ 6/29 う蝕と歯周病の予防法：歯磨剤（フッ化物添加、キシリトール）、洗口剤</p> <p>⑩ 7/4 う蝕と歯周病の予防法：歯ブラシによる害</p> <p>⑪ 7/6 う蝕と歯周病の予防法：デンタルフロス実技チェック</p> <p>⑫ 7/11 口臭</p> <p>⑬ 9/1 口腔内状況の経年齢的变化：歯の形成と萌出（萌出、脱落期）</p> <p>⑭ 9/8 口腔内状況の経年齢的变化：歯の形成と萌出（萌出、脱落期）</p> <p>⑮ 9/15 口腔内状況の経年齢的变化：歯科疾患実態調査の概要、乳歯のう蝕罹患状況</p> <p>⑯ 9/26 口腔内状況の経年齢的变化：乳歯のう蝕罹患状況</p> <p>⑰ 9/27 口腔内状況の経年齢的变化：永久歯のう蝕罹患状況</p> <p>⑱ 10/25 口腔内状況の経年齢的变化：永久歯のう蝕罹患状況</p> <p>⑲ 11/2 口腔内状況の経年齢的变化：歯周病の罹患状況</p> <p>⑳ 11/7 口腔内状況の経年的变化：歯の喪失</p>		
<b>授業方法</b>	講義、演習、実習		
<b>進め方</b>	基本的知識の習得は講義形式で行うが、より理解を深めるためのものや臨床能力を必要とするものについては、演習や実習を取り入れる。		
<b>評価方法</b>	筆記試験		

<b>科目名</b>	口腔衛生学Ⅱ		
<b>講師名</b>	河原 民宜	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 他職種と連携・協働するための資質を養う。		
<b>授業目的</b>	公衆衛生学における地域歯科保健活動について学ぶ。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 「保健生態学」(医歯薬出版) 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 「保健情報統計学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>			
	<b>単元</b>	<b>使用する教科書</b>	
	1 保健情報と保健統計 2 保健情報と疫学 3 保健情報の分析手順 4 保健統計の方法 5 保健情報の分析演習・情報の保護と倫理	「保健情報統計学」	
	1 公衆歯科衛生とそれにおける地域歯科保健活動について  2 母子歯科保健について 3 学校歯科保健について 4 成人歯科保健について	<u>「保健生態学」</u> Ⅲ編 1章⑤  Ⅲ編 2章④ Ⅲ編 3章①-3、③ 編Ⅲ 4章④	
	(5 産業歯科保健について) (6 老人(高齢者)歯科保健について)		
	7 災害時の歯科保健 8 歯科疾患の数量化における歯科疾患に関する指数について 9 歯科疾患の数量化における歯科疾患に関する指数について 10 歯科疾患の数量化における歯科疾患に関する指数について	Ⅲ編 8章①②③  <u>「保健情報統計学」</u> 3章 (p36~70)	
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	基本的に教科書中心にすすめる。		
<b>評価方法</b>	出席・試験		

<b>科目名</b>	衛生・公衆衛生学		
<b>講師名</b>	松田 秀司	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（勤務医）	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 他職種と連携・協働するための資質を養う。		
<b>授業目的</b>	予防医学の概念や、人をとりまく自然および社会環境と健康との関係集団を 対象とした疾病予防・健康増進、地域保健活動について学ぶ。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1「保健生態学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論</li> <li>2 疫学</li> <li>3 人口</li> <li>4 地域保健・公衆衛生</li> <li>5 母子保健</li> <li>6 学校保健</li> <li>7 成人保健</li> <li>8 産業保健</li> <li>9 老人（高齢者）保健</li> <li>10 健康と環境</li> <li>11 感染症</li> <li>12 食品と健康</li> <li>13 精神保健</li> <li>14 国際保健</li> <li>15</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	基本的に教科書中心にすすめる		
<b>評価方法</b>	出席・試験		

<b>科目名</b>	衛生行政・社会福祉		
<b>講師名</b>	永松 久美子	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	他職種と連携・協働するための資質を養う。		
<b>授業目的</b>	衛生行政や社会保障制度に関する法律について学ぶ。		
<b>使用テキスト</b>	最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 「歯科衛生士と法律・制度」第3版(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>			
1	歯科衛生士と法律；	衛生行政の目的、歯科医師法、歯科技工士法	
2	歯科衛生士と法律；	歯科口腔保健の推進に関する法律、医療法	
3	歯科衛生士と法律；	医療法	
4	医療関係職種；	他の医療関係者に関する法律	
5	医療関係職種；	他の医療関係者に関する法律	
6	その他の関係法規；	薬事・地域保健・その他衛生法規	
7	その他の関係法規；	薬事・地域保健・その他衛生法規	
8	社会保障；	社会保障、社会保険、医療保険	
9	社会保障；	社会保障、社会保険、医療保険	
10	社会保障；	介護保険、年金保険、雇用保険と労働者災害保険	
11	社会保障；	介護保険、年金保険、雇用保険と労働者災害保険	
12	社会保障；	社会福祉	
13	社会保障；	社会福祉	
14	医療の動向；	医療状況の動向	
15	医療の動向；	医療状況の動向	
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	基本的に教科書中心にすすめる		
<b>評価方法</b>	出席・試験		

<b>科目名</b>	歯科衛生学総論・医療倫理		
<b>講師名</b>	河原 民宜 和田 久子	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師 歯科衛生士	
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b> 2	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>他職種と連携・協働するための資質を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	<p>医療・保健に携わる者（健康を支援する者）の目標を明確にし、基本的態度についての認識を高める。また、歯科衛生士の社会的役割について理解する。</p>		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」（医歯薬出版）		
<b>授業内容</b>	<p>次ページ参照</p>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	<p>授業内容に沿って、作成したプリントを基に進める。</p> <p>必要に応じて、教科書を使用する。</p>		
<b>評価方法</b>	定期試験及び提出物		



### 単元1 歯科衛生士とは（総論 7回）

一般目標 歯科衛生士の職業を理解するために歯科衛生の定義について学ぶ。

到達目標 ・ 歯科衛生の定義を述べることができる。

- ・ 予防、健康の概念、QOL について説明できる。
- ・ 歯や口の健康と QOL との関連について述べるができる。
- ・ 健康づくり理論を説明できる。

回	日時限	内 容	備考
1	4.18②	歯科衛生の定義、歯科衛生士とは何か。 予防の概念	担当：和田
2	4.25②	健康の定義	〃
3	5.2②	健康の概念（ICF）	〃
4	5.9②	QOL	〃
5	5.16②	歯や口腔の健康と QOL	〃
6	5.23②	健康の保持増進の理論 プライマリーヘルスケア	〃
7	5.30②	健康の保持増進の理論 ヘルスプロモーション	〃

### 単元2 歯科衛生の実践（5回）

一般目標 歯科衛生を実践するために必要な歯科衛生士法の規定と歯科衛生過程について理解する。

到達目標 ・ 歯科衛生士法の規定を説明できる。

- ・ 歯科衛生士法の変遷と歯科衛生士の存在意義を説明できる。
- ・ 歯科衛生過程について説明できる。
- ・ 歯科衛生過程の活用に必要な考え方を（クリティカルシンキング,EBM,NBM）説明できる。

回	日時限	内 容	備考
8	6.6②	歯科衛生士法にみる歯科衛生士の業務	担当：和田
9	6.13②	〃	〃
11	6.20②	歯科衛生士法の変遷と歯科衛生士の存在意義 歯科衛生士法の改正	〃
13	6.27②	歯科衛生過程	〃
15	7.4②	〃（クリティカルシンキング、EBM,NBM）	〃

### 単元3 医療倫理（3回）

一般目標 医療・保健の従事者に求められる基本的態度を身につけるために、医療倫理と患者中心医療について理解する。

回	日時限	内 容	備考
10	6.16②	医療倫理 歯科医療現場における医療従事者としての立場と視点	担当：河原先生
12	6.23②	患者中心医療 インフォームドコンセント	〃
14	6.30②	EBM と生命倫理	〃

<b>科目名</b>	歯科臨床概論		
<b>講師名</b>	石多 克行	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。 人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。		
<b>授業目的</b>	歯科臨床全般を理解する。		
<b>使用テキスト</b>	「歯科衛生士のための歯科臨床概論」第2版（医歯薬出版）		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 歯科診療と歯科診療所</li> <li>2 小児歯科</li> <li>3 矯正歯科・口腔外科</li> <li>4 歯科保存</li> <li>5 歯周治療</li> <li>6 歯科補綴</li> <li>7 障害者歯科・高齢者歯科</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書に沿って進める。		
<b>評価方法</b>	試験		

<b>科目名</b>	保存修復学		
<b>講師名</b>	清水 佐知子	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（勤務医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。		
<b>授業目的</b>	保存修復、硬組織疾患の抑制・修復についての化学的知識及び技術を学ぶ。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」（医歯薬出版）		
<b>授業内容</b>			
	1	総論	
	2	保存修復の概要	
	3	保存修復治療の準備	
	4	歯の切削・窩洞形成 歯髄保護 保存修復の種類	
	5	小テスト・復習	
	6	コンポジットレジン修復	
	7	セメント修復	
	8	インレーおよびアンレー修復	
	9	ベニア修復 合着材および接着材 歯のホワイトニング	
	10	まとめ	
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	教科書に沿いながらパワーポイントを用い講義。		
<b>評価方法</b>	筆記試験・選択形式試験で評価。		

<b>科目名</b>	歯内療法学																						
<b>講師名</b>	鐘築 剛	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）																					
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回																				
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。																						
<b>授業目的</b>	歯の硬組織、歯髄及び根尖性歯周組織の疾患について、その原因、病態や症状をはじめ、治療法や使用される器材や薬物についての講義を通じて、口腔保健医療従事者として 十分な知識の習得。																						
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」(医歯薬出版)																						
<b>授業内容</b>	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>1章 歯内療法の概要 ①歯内療法学とは ②歯内疾患（主な疾患）の概要と原因</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1章 歯内療法の概要 ③歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2章 歯髄温存療法</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3章 歯髄除去療法</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4章 根管治療、根管充填 ①根管治療の基本概念 ②根管治療の術式</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>4章 根管治療、根管充填 ③根管充填 ④根未完成歯の根管処置</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5章 外科的歯内療法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6章 歯の外傷 7章 歯内療法における安全対策</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>8章 歯内療法における歯科衛生士の役割</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>(付) 歯のホワイトニング（ブリーチング） 総復習</td> </tr> </table>			1	1章 歯内療法の概要 ①歯内療法学とは ②歯内疾患（主な疾患）の概要と原因	2	1章 歯内療法の概要 ③歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状	3	2章 歯髄温存療法	4	3章 歯髄除去療法	5	4章 根管治療、根管充填 ①根管治療の基本概念 ②根管治療の術式	6	4章 根管治療、根管充填 ③根管充填 ④根未完成歯の根管処置	7	5章 外科的歯内療法	8	6章 歯の外傷 7章 歯内療法における安全対策	9	8章 歯内療法における歯科衛生士の役割	10	(付) 歯のホワイトニング（ブリーチング） 総復習
1	1章 歯内療法の概要 ①歯内療法学とは ②歯内疾患（主な疾患）の概要と原因																						
2	1章 歯内療法の概要 ③歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状																						
3	2章 歯髄温存療法																						
4	3章 歯髄除去療法																						
5	4章 根管治療、根管充填 ①根管治療の基本概念 ②根管治療の術式																						
6	4章 根管治療、根管充填 ③根管充填 ④根未完成歯の根管処置																						
7	5章 外科的歯内療法																						
8	6章 歯の外傷 7章 歯内療法における安全対策																						
9	8章 歯内療法における歯科衛生士の役割																						
10	(付) 歯のホワイトニング（ブリーチング） 総復習																						
<b>授業方法</b>	講義・その他（追加プリント、スライド）																						
<b>進め方</b>	スライドや配布資料を用いて進める。																						
<b>評価方法</b>	講義内容に関する筆記試験を2年前期末に行い、受講姿勢なども考慮し、総合的に評価する。																						

<b>科目名</b>	歯周治療学 I																																										
<b>講師名</b>	金森 一溪	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）																																									
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回																																								
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。																																										
<b>授業目的</b>	歯周病の病態を歯周組織やその周辺関連組織の形態や機能と関連させて理解する。																																										
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)																																										
<b>授業内容</b>	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td colspan="3">I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯周治療とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td colspan="3">2章 正常な歯周組織の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td colspan="3">3章 歯周病 1 - 歯周病の分類</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td colspan="3">2 - 歯周病の原因      3 - 歯周医学</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td colspan="3">II 編 歯周治療の臨床と歯科衛生業務 1章 歯周治療の進め方</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td colspan="3">2章 歯周病の診査 1 - 主訴を中心とした一般診査    2 - 歯周組織の診査</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td colspan="3">3 - 咬合の診査    4 - エックス線による診査 5 - その他の診査</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td colspan="3">3章 歯周基本治療 1 - 歯周基本治療の目的</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td colspan="3">2 - 歯周基本治療の内容と実際</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td colspan="3">根面のデブライドメント    薬物療法</td> </tr> </table>			1	I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯周治療とは			2	2章 正常な歯周組織の構造と機能			3	3章 歯周病 1 - 歯周病の分類			4	2 - 歯周病の原因      3 - 歯周医学			5	II 編 歯周治療の臨床と歯科衛生業務 1章 歯周治療の進め方			6	2章 歯周病の診査 1 - 主訴を中心とした一般診査    2 - 歯周組織の診査			7	3 - 咬合の診査    4 - エックス線による診査 5 - その他の診査			8	3章 歯周基本治療 1 - 歯周基本治療の目的			9	2 - 歯周基本治療の内容と実際			10	根面のデブライドメント    薬物療法		
1	I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯周治療とは																																										
2	2章 正常な歯周組織の構造と機能																																										
3	3章 歯周病 1 - 歯周病の分類																																										
4	2 - 歯周病の原因      3 - 歯周医学																																										
5	II 編 歯周治療の臨床と歯科衛生業務 1章 歯周治療の進め方																																										
6	2章 歯周病の診査 1 - 主訴を中心とした一般診査    2 - 歯周組織の診査																																										
7	3 - 咬合の診査    4 - エックス線による診査 5 - その他の診査																																										
8	3章 歯周基本治療 1 - 歯周基本治療の目的																																										
9	2 - 歯周基本治療の内容と実際																																										
10	根面のデブライドメント    薬物療法																																										
<b>授業方法</b>	講義・その他（追加プリント、スライド）																																										
<b>進め方</b>	基本的に教科書に沿って講義を行うが、必要に応じてスライドや配布資料を用いて補足を行う。																																										
<b>評価方法</b>	講義内容に関する筆記試験を1年後期末に行い、受講姿勢なども考慮し、総合的に評価する。																																										

<b>科目名</b>	歯周治療学Ⅱ		
<b>講師名</b>	多田 聡	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。		
<b>授業目的</b>	歯周病の病態を歯周組織やその周辺関連組織の形態や機能と関連させて理解し、その病因、進行のメカニズム、診査、治療法ならびに予防法を理解、習得する。		
<b>使用テキスト</b>	最新歯科衛生士教本「歯周病学」第2版（医歯薬出版）		
<b>授業内容</b>			
1	4章 歯周外科治療 1－歯周外科治療の目的と分類 2－歯周外科後の治癒形態		
2	4－種々の外科治療 根分岐部病変の治療 歯周－歯内病変の治療		
3	5章 歯周治療としてのリハビリテーション インプラントによる治療		
4	6章 メインテナンス		
5	7章 歯周治療における衛生士の役割 1－歯周治療の進め方 2－歯周組織検査・診断時の補助		
6	3－リスクファクターなどに対する指導		
7	4－スケーリング・ルートプレーニング		
8	5－歯周外科治療		
9	6－リハビリテーション		
10	7－メインテナンス 8－診療室と器具・器材の管理		
<b>授業方法</b>	講義・その他（追加プリント、スライド）		
<b>進め方</b>	基本的に教科書にそって講義を行うが、必要に応じてスライドや配布資料を用いて補足を行う。		
<b>評価方法</b>	講義内容に関する筆記試験を行い、受講姿勢なども考慮し総合的に評価する。		

<b>科目名</b>	歯科補綴学		
<b>講師名</b>	高橋 健	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×12回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。		
<b>授業目的</b>	歯科補綴は「失った歯を人工的に回復する」分野である。それは「歯を守るDHにとって不必要な分野」ではない。実は「これ以上歯を失わない」ために重要な分野であり、DHの果たす役割も大きい。歯科補綴の治療方法の知識を十分に学び、歯科医療や介護の現場で「使える人」になってもらう。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<p>★何を学ぶか  ○歯を喪失して初めて「歯をもっと大事にすればよかった」と感じる患者さんは多く、まさに歯科衛生指導に最適なタイミングである。→歯を喪失した患者さんの状況と心理を学ぶ。  ○歯は全部一度に喪失するのではない。これ以上歯を失わないため、補綴治療が成功するにはDHの果たす役割も大変重要である。→印象や使用機材の準備などの診療室での業務・技工士との連携・義歯やクラウンなどのメンテナンス・補綴方法の相談に必要な知識を学ぶ。</p> <p>★2年次の授業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 クラウン・ブリッジ・部分床義歯・全部床義歯</li> <li>2、 基礎知識 1（喪失前はどんな形？）</li> <li>3、 基礎知識 2（かみ合わせを再現するために）</li> <li>4、 クラウン 1（どんな種類があるの？）</li> <li>5、 クラウン 2（実際の臨床）</li> <li>6、 ブリッジ 1（ポンティックの形）</li> <li>7、 ブリッジ 2（つなげ方）</li> <li>8、 部分床義歯 1（維持装置と連結装置）</li> <li>9、 部分床義歯 2（製作手順）</li> <li>10、 全部床義歯 1（印象採得）</li> <li>11、 全部床義歯 2（咬合採得）</li> <li>12、 インプラント・特殊義歯・修理</li> </ol> <p>★3年次の授業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13、 補綴装置の種類（復習）</li> <li>14、 咬合論</li> <li>15、 まとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	板書中心。また患者の口腔内に入る実物を見てもらう。 ① 宿題を出すことがある。宿題の内容理解を見るために小テストをすることがある。 ② 小テストを8回程度する。理解の程度を確かめます。 ③ 途中ノート提出がある（5月ごろ）。理解の程度を確かめる。		
<b>評価方法</b>	定期テスト。ただし、小テストの成績、出欠状況、提出物状況も勘案。		

<b>科目名</b>	歯科矯正学		
<b>講師名</b>	四方 雄一郎	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×15回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。		
<b>授業目的</b>	不正咬合の治療意義と診断および治療法の概念を理解する。 歯科矯正の基礎を理解し、臨床の場において成長発育を考慮した適切なアドバイスが出来る歯科衛生士を育成する。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<p>体験を通して理解を深める 歯科矯正の講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 矯正歯科治療の概要</li> <li>② 成長と発育</li> <li>③ 正常咬合と不正咬合</li> <li>④ 矯正歯科診断</li> <li>⑤ 矯正力・顎整形力・保定</li> <li>⑥ 矯正装置</li> <li>⑦ 上下顎の水平的・垂直的關係の不調和</li> <li>⑧ 成人矯正</li> <li>⑨ 口腔顔面の形成異常と変形</li> <li>⑩ 歯の埋伏と歯数の異常</li> <li>⑪ 矯正歯科治療のトラブルへの対応</li> <li>⑫ 矯正歯科診断に関わる業務</li> <li>⑬ 矯正歯科診療時の業務</li> <li>⑭ 矯正歯科患者と口腔保健管理</li> <li>⑮ 口腔筋機能療法</li> <li>⑯ 器材・資料・文書の管理</li> </ul> <p>実習： 1.模型分析 2.セファロ分析</p>		
<b>授業方法</b>	講義・実習・その他		
<b>進め方</b>	講義と実習を並行して行い、理解しやすいよう進める。		
<b>評価方法</b>	後期定期試験、実習点、その他		



<b>科目名</b>	口腔外科学		
<b>講師名</b>	菅野 貴浩、奥井 達雄、 松田 悠平、松田 秀司	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師・歯科衛生士（大学病院勤務、勤務医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×16回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。		
<b>授業目的</b>	1) 口腔領域に発症する発育異常、外傷、炎症、嚢胞、顎関節疾患、腫瘍など口腔外科に関連する疾患を理解する。 2) 歯科及び口腔外科治療を行う際に考慮を必要とする、全身疾患・状態に対し理解を深め、安全な歯科治療介助、歯科衛生士業務が行えるようにする。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>			
回数	日にち	内容	講師
1	4/5 (水)	総論；ガイダンス	菅野先生
2	4/12 (水)	各論 1； 顎・口腔領域の先天異常と発育異常	松田先生
3	4/19 (水)	各論 2； 顎・口腔領域の損傷および機能障害	松田先生
4	4/26 (水)	各論 3； 口腔粘膜の病変	松田先生
5	5/10 (水)	各論 4； 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患	松田先生
6	5/17 (水)	各論 5； 顎・口腔領域の嚢胞性疾患	松田先生
7	5/24 (水)	各論 6； 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	松田先生
8	5/31 (水)	各論 7； 唾液腺疾患	松田先生
9	6/7 (水)	各論 8； 口腔領域の神経疾患	松田先生
10	6/14 (水)	各論 9； 口腔外科診療の実際—小手術と歯科衛生士の介助 1	松田先生
11	6/21 (水)	各論 10； 口腔外科診療の実際—小手術と歯科衛生士の介助 2	松田先生
12	6/28 (水)	各論 11； 麻酔法、精神沈静法	松田先生
13	7/5 (水)	総括	奥井先生
14		バイタルサインの測定、救急蘇生(講義)	松田先生
15		バイタルサインの測定、救急蘇生(実習)	外部講師
16		バイタルサインの測定、救急蘇生(実習)	外部講師
<b>授業方法</b>	講義・実習		
<b>進め方</b>	テキスト講義が中心となるが、知見を深めるため必要に応じてスライド・プロジェクターなどを使用する。		
<b>評価方法</b>	講義終了後の筆記試験により判定する。		

<b>科目名</b>	小児歯科学		
<b>講師名</b>	難波 比呂志	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>他職種と連携・協働するための資質を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p>		
<b>授業目的</b>	小児の歯科治療に必要な、知識、見識を全人的に学習する事により母子保健に通ずる衛生士を育成する。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<p>1 I編 小児歯科概論</p> <p>2 " 心身の発育・小児の生理的特徴</p> <p>3 " 顔面頭蓋の発育・歯の発育とその異常</p> <p>4 " 歯列・咬合の発育と異常・小児の歯科疾患</p> <p>5 II編 小児の特徴と歯科的問題点</p> <p>6 " 小児歯科における治療体系</p> <p>7 " 小児歯科における患者との対応法・障がい児の歯科治療</p> <p>8 III編 診察・検査時の業務・う蝕予防</p> <p>9 " 小児歯科診療における診療補助</p> <p>10 " 小児の口腔保健管理・歯科診療室と器材の管理</p>		
<b>授業方法</b>	講義・実習		
<b>進め方</b>	<p>教科書に準じる。</p> <p>確認試験</p> <p>レポート</p>		
<b>評価方法</b>	定期試験・確認試験・レポート		

<b>科目名</b>	障がい者歯科学		
<b>講師名</b>	宮松 伸也	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×10回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>他職種と連携・協働するための資質を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p>		
<b>授業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各障害についての正しい理解</li> <li>・各障害の歯科治療における留意点</li> <li>・各障害と歯科衛生士の関りにおける留意点</li> </ul>		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>			
①	障害の概念 (定義, 分類, 原因と種類, 周囲の環境.)		
②	歯科医療で特別な支援が必要な疾患 (障害の種類, 歯科的特徴, 留意点)		
③	障がい者の歯科医療と行動調整法 (コミュニケーション法, 行動療法, 体動のコントロール, 薬物的行動調整法)		
④	健康支援と口腔衛生管理 (介助者による口腔ケアと専門的口腔ケア, 口腔衛生管理と口腔機能管理)		
⑤	リスク評価と安全管理		
⑥	摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割 (摂食・嚥下障害と口腔・栄養管理, 評価法, 摂食機能療法)		
⑦	地域における障がい者歯科 (地域医療連携, 関連職種との連携, 口腔保健活動)		
⑧	障がい者歯科における歯科衛生過程		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	<p>パワーポイントを使用したスライドと教科書にて各内容の要点をおさえる。</p> <p>最後の授業時に、模擬テストの形で全項目の復習を行う。</p>		
<b>評価方法</b>	試験		

<b>科目名</b>	高齢者歯科学																									
<b>講師名</b>	松田 秀司	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（勤務医）																								
<b>授業時期</b>	2年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×15回																							
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>他職種と連携・協働するための資質を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p>																									
<b>授業目的</b>	高齢者の有する特性を理解し、これまでの知識を整理しながら適切な治療、およびケアを行うことを学習する。																									
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」(医歯薬出版)																									
<b>授業内容</b>	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>総論</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="2">I編 高齢者をとりまく社会と環境</td> </tr> <tr> <td>3</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td rowspan="2">II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患</td> </tr> <tr> <td>5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="2">III編 高齢者の状態の把握</td> </tr> <tr> <td>7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td rowspan="2">IV編 口腔のケア</td> </tr> <tr> <td>9</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td rowspan="2">V編 高齢者に関わる医療と介護</td> </tr> <tr> <td>11</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td rowspan="2">VI編 高齢者歯科における歯科衛生課程</td> </tr> <tr> <td>13</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td rowspan="2">まとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> </tr> </table>			1	総論	2	I編 高齢者をとりまく社会と環境	3	4	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患	5	6	III編 高齢者の状態の把握	7	8	IV編 口腔のケア	9	10	V編 高齢者に関わる医療と介護	11	12	VI編 高齢者歯科における歯科衛生課程	13	14	まとめ	15
1	総論																									
2	I編 高齢者をとりまく社会と環境																									
3																										
4	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患																									
5																										
6	III編 高齢者の状態の把握																									
7																										
8	IV編 口腔のケア																									
9																										
10	V編 高齢者に関わる医療と介護																									
11																										
12	VI編 高齢者歯科における歯科衛生課程																									
13																										
14	まとめ																									
15																										
<b>授業方法</b>	講義・実習																									
<b>進め方</b>	教科書に沿いながら、パワーポイント等を使用して講義する。																									
<b>評価方法</b>	選択・記述形式による試験																									

<b>科目名</b>	歯科放射線学		
<b>講師名</b>	小田原 聖	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×9回
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。		
<b>授業目的</b>	エックス線写真撮影における、歯科衛生士の役割を理解する。 エックス線検査時、歯科診療補助を行なうにあたっての基本的知識を身につける。		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 放射線の基礎知識</li> <li>② 放射線の人体への影響と放射線防護</li> <li>③ エックス線撮影における歯科衛生士の役割・撮影用機材</li> <li>④ 口内法エックス線撮影法</li> <li>⑤ フィルムの位置づけ・照射方向の設定</li> <li>⑥ 配慮が必要な患者の撮影・パノラマエックス線撮影</li> <li>⑦ 頭部エックス線規格写真</li> <li>⑧ 写真処理と管理</li> <li>⑨ 放射線治療と口腔管理</li> </ul>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	読影・実習は歯科診療補助の授業で実施する。		
<b>評価方法</b>	期末試験		

<b>科目名</b>	摂食嚥下リハビリテーション																																																		
<b>講師名</b>	酒井 翔悟	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（勤務医）																																																	
<b>授業時期</b>	2年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×15回																																																
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>他職種と連携・協働するための資質を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p>																																																		
<b>授業目的</b>	<p>正常な摂食嚥下機能について理解を深めることにより、摂食嚥下障害を持つ障がい児（者）、要介護高齢者に対する簡易検査、訓練、専門的口腔ケアを提供できるような知識、技術を身に付ける。</p>																																																		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版（医歯薬出版）																																																		
<b>授業内容</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> <th>形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>リハビリテーション 総論</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>摂食嚥下のメカニズム 成人</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>摂食嚥下のメカニズム 小児・障害</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>摂食嚥下機能の確認</td> <td>実習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>成人の摂食嚥下障害</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>嚥下障害の体験</td> <td>実習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>口腔ケア</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>口腔ケア</td> <td>実習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>口腔ケア</td> <td>実習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>検査</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スクリーニング</td> <td>実習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>訓練</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>訓練</td> <td>実習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>食支援、食指導、リスクマネジメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>歯科衛生ケアプロセス 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>			回数	内容	形式	1	リハビリテーション 総論	講義	2	摂食嚥下のメカニズム 成人	講義	3	摂食嚥下のメカニズム 小児・障害	講義	4	摂食嚥下機能の確認	実習	5	成人の摂食嚥下障害	講義	6	嚥下障害の体験	実習	7	口腔ケア	講義	8	口腔ケア	実習	9	口腔ケア	実習	10	検査	講義	11	スクリーニング	実習	12	訓練	講義	13	訓練	実習	14	食支援、食指導、リスクマネジメント	講義	15	歯科衛生ケアプロセス 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本	講義
回数	内容	形式																																																	
1	リハビリテーション 総論	講義																																																	
2	摂食嚥下のメカニズム 成人	講義																																																	
3	摂食嚥下のメカニズム 小児・障害	講義																																																	
4	摂食嚥下機能の確認	実習																																																	
5	成人の摂食嚥下障害	講義																																																	
6	嚥下障害の体験	実習																																																	
7	口腔ケア	講義																																																	
8	口腔ケア	実習																																																	
9	口腔ケア	実習																																																	
10	検査	講義																																																	
11	スクリーニング	実習																																																	
12	訓練	講義																																																	
13	訓練	実習																																																	
14	食支援、食指導、リスクマネジメント	講義																																																	
15	歯科衛生ケアプロセス 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本	講義																																																	
<b>授業方法</b>	講義・演習・実習																																																		
<b>進め方</b>	<p>講義の後、実習で体験する形式をとる。</p> <p>講義の際に小テストを行い、理解度を確認する。</p>																																																		
<b>評価方法</b>	出席、受講、実習態度、実習レポート内容及び試験点数を含め、総合的に評価する。																																																		

<b>科目名</b>	臨床検査		
<b>講師名</b>	高野 智晴	<b>実務経験とその関連資格</b> 松江赤十字病院検査部（臨床検査技師）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>他職種と連携・協働するための資質を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	<p>臨床検査の概要を知る。</p> <p>検査結果から患者の状態を判断できる。</p> <p>患者の病気を把握し、感染防止や患者への対応を理解する。</p>		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「臨床検査」(医歯薬出版)		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の進め方と第1章「臨床検査とは」</li> <li>2 前回の復習と第2章「生体検査（生理機能検査）」</li> <li>3 前回の復習と第3章「検体検査」</li> <li>4 前回の復習と第3章の残り</li> <li>5 前回の復習と第4章「口腔領域の臨床検査」</li> <li>6 前回の復習と第5章「摂食、嚥下関連の検査」</li> <li>7 前回の復習と付章「主な疾患・病態別検査値の捉え方」</li> <li>8 全体の復習とまとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	<p>テキストを中心に学生に読ませる形で進行。</p> <p>講義にパワーポイントを使用。</p> <p>毎回、前回の復習として学生に問題をあてて答えさせる。</p>		
<b>評価方法</b>	<p>筆記試験</p> <p>授業態度</p>		

科目名	基礎介護技術		
講師名	(別紙プリントに記載)	実務経験とその関連資格 看護師、介護福祉士、歯科衛生士	
授業時期	2年生 前期	単位数	1 時間数 80分×21回
教育目標	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 他職種と連携・協働するための資質を養う。 人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。		
授業目的	介護の場でケアチームの一員として、福祉や介護の理念に配慮し、且つ対象のニーズに応じた口腔ケアが安全に展開できるために、福祉、介護の基本的な知識と介護の基本技術の習得を行う。		
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」中央法規		
授業内容	<p style="text-align: center;">次ページに続く</p>		
授業方法	講義・演習・実習		
進め方			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休まず出席する。(30点)</li> <li>・ 講義については、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行動目標</span> (*) についてノート作りをし、実習については実習記録表を書く (50点)</li> <li>・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行動目標</span> (◎) について事例を基にレポートを書く。(20点)</li> </ul>		



基礎介護技術（令和5年度）

**（1）介護概論（80分×5回）**

講師：森脇 賢子先生

**一般目標** 生活支援としての介護福祉の目的と役割を理解できる

**行動目標**

- \* 専門職による「介護」が誕生した経緯と社会的背景を理解することができる。
- \* 尊厳を支える介護にかかわるノーマライゼーション、QOLなどの考え方を述べることができる。
- \* 自立を支える介護にかかわる自己決定や利用者主体について述べるができる。

回	予定日	時限	内容	備考
1	4/26	①	<b>介護福祉とは</b> 介護の成り立ち 専門職による「介護」が誕生した社会的な背景	
2	5/10	①	<b>介護の概念の変遷</b>	
3	5/17	①	<b>介護福祉の基本的理念</b> 尊厳を支える介護 自立を支える介護	
4	5/24	①	<b>自立に向けた介護福祉のあり方</b> 自立支援の考え方	
5	5/31	①	<b>自立に向けた介護福祉のあり方</b> 自立支援と介護予防	

**（2）基本介護技術法（80分×10回）**

講師：山本先生、伊藤先生

**一般目標** 安全で快適な口腔のケアができるために、対象の不自由さや障害を理解したうえで、基本的介護技術を身につける。

**行動目標**

- \* 視覚・聴覚・上肢障害を体験し、その不自由さと対応を述べるができる。
- \* 肢体不自由者への歩行介助の要点を挙げるができる。
- \* 視覚障害者への介助の要点を挙げるができる。
- \* 体位・姿勢変換・座位の保持の要点を挙げるができる。
- \* 車椅子への移乗等の介助の要点を挙げるができる。
- \* 車椅子の移動介助の要点を挙げるができる。

回	予定日	時限	内容	備考
6・7	4/25	①②	不自由体験実習	専任教員対応
8・9	5/22	①②	視覚障害者の歩行の介護、実習	講師：ライトハウス ライブラリー
10・11	5/26	①②	全身疾患と肢体不自由（講義）	講師：山本先生
12・13	5/29	①②	介護の基礎（講義） 診療台への誘導（演習）	講師：山本先生 他講師1名 杖：8本
14・15	6/7	①②	在宅診療時の対応（体位、姿勢変換、 座位の保持） 車椅子への移乗等の介護（実習） 車椅子等での移動の介護（実習）	講師：山本先生 他講師2名 ベッド：4台 車椅子：4台

### (3) 介護保険制度と口腔ケア (80分×5回)

講師：安部歯科衛生士、別所歯科衛生士

**一般目標** 制度の目的にあった口腔健康管理が提供できるために、介護保険の概要とサービス内容について理解する。また、介護支援サービスの中での口腔ケアの位置づけについて理解する。

**行動目標**

- \* 介護保険制度のしくみについて述べることができる。
- \* 各サービスの役割と機能について述べるができる。
- \* 各サービスの中での口腔ケアの目的を述べるができる。
- \* ケアマネージメントの目的を述べるができる。
- \* 口腔のケアアセスメント作成の要点を挙げるができる。

回	予定日	時限	内容	備考
16	6/2	①	介護保険制度の理念としくみ	安部 DH
17	6/9	①	各サービス内容と口腔のケアの目的	安部 DH
18	6/16	①	介護支援サービスとケアマネージメントについて	別所 DH
19	6/23	①	事例を基に口腔のケアアセスメント作成の要点	別所 DH
20	6/30	①	事例を基に口腔のケアアセスメント作成の要点	別所 DH

### (4) チーム医療 (ケア) と連携 (事例報告) (80分×1回)

講師：北村歯科衛生士

**一般目標** ケアチームの一員として口腔ケアを展開するために、チームケアにおける各職種の役割と関わりについて理解する。

**行動目標** ◎事例発表を基に、チームケアのあり方と口腔ケアの位置づけについて、自分の考えを述べるができる。

**方法** 事例報告

回	予定日	時限	内容	備考
21	6/30	②	事例	北村 DH

科目名	教育学		
講師名	塩津 英樹	実務経験とその関連資格 島根大学教育学部 准教授	
授業時期	1年生 後期	単位数	2 時間数 80分×15回
教育目標	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。		
授業目的	教育の意義と目的、人間の成長と発達、福祉と人権、共生社会の理念等についての学習を通じて人間理解を深め、自分なりの教育観を磨くとともに、高い倫理観を持って人と接し、よりよい社会生活を送ることのできる基礎的能力を養うことを目的とする。		
使用テキスト	特に指定はしません。随時、必要な資料を配布します。		

### 授業内容

1	オリエンテーション	－教育学とは－
2	教育の意義と本質①	－教育の定義と目的－
3	教育の意義と本質②	－乳幼児期における教育の目的－
4	教育の意義と本質③	－人間の成長と発達－
5	福祉と人権①	－子供観の歴史的変化と教育－
6	福祉と人権②	－子供の権利を中心に－
7	教育を支える基盤①	－子供・家庭－
8	教育を支える基盤②	－教員・学校－
9	学校教育の成立と展開①	－学校の歴史を中心に－
10	学校教育の成立と展開②	－公教育の原理を中心に－
11	共生社会の実現に向けて①	－合理的配慮とは－
12	共生社会の実現に向けて②	－発達障がいの特性とその理解－
13	現代社会と教育①	－グローバル化と異文化理解－
14	現代社会と教育②	－若者の社会参画－
15	現代社会と教育③	－自己実現と職業生活－

授業方法	講義・グループワーク
進め方	講義を中心に進めますが、少人数によるグループワーク等も行います。
評価方法	平常点・コメントシートの提出（30%） 筆記試験（70%）

<b>科目名</b>	臨床医学		
<b>講師名</b>	足立 充	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師（開業医）	
<b>授業時期</b>	2年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	<p>医学的知識の習得。</p> <p>歯科疾患と全身疾患との関連について学ぶ。</p>		
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック（医歯薬出版）		
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 代謝、内分泌疾患</li> <li>2 消化器疾患</li> <li>3 循環器疾患、血液疾患</li> <li>4 呼吸器疾患</li> <li>5 腎・泌尿器疾患、免疫疾患・膠原病</li> <li>6 感染症、精神疾患</li> <li>7 神経疾患</li> <li>8 まとめ</li> </ol>		
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	スライド、テキスト		
<b>評価方法</b>	定期試験		

<b>科目名</b>	医療接遇				
<b>講師名</b>	松下 香寿美	<b>実務経験とその関連資格</b> 人材育成コンサルティング			
<b>授業時期</b>	1年生 前期	<b>単位数</b>	1	<b>時間数</b>	80分×12回
<b>教育目標</b>	他職種と連携・協働するための資質を養う。 人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。				
<b>授業目的</b>	社会人に必要な印象管理（身だしなみ・挨拶）や、応対マナー（言葉づかい・電話対応など）の基本を習得すると同時に、顧客（患者）の立場に立った具体的方法に応用・発展させながら、医療接遇の重要性理解を促進する。				
<b>使用テキスト</b>	オリジナルプリントテキスト				
<b>授業内容</b>					
回	日付	コマ数	筆記テスト	実技チェック	講義・実践練習
第1回	4/14	1			接遇の意味・印象管理・身だしなみ・挨拶
第2回	4/21	2	習得度テスト①	身だしなみ	敬語形式の理解・基本敬語・接遇用語
第3回	4/28	1	習得度テスト②		相手の心理を察した表現・院内接遇表現
第4回	5/12	2	習得度テスト③	挨拶・お辞儀	電話対応（かけ方・受け方・取り次ぎ・不在対応）
第5回	5/19	1	習得度テスト④		予約電話対応・来客対応マナー（名刺・席次）
第6回	5/26	2	習得度テスト⑤	電話対応の基本	
第7回	6/2	1			
第8回	6/9	2		予約電話・来院・会計	傾聴・院内シミュレーション
			課題レポート		
<b>授業方法</b>	講義・ロールプレイ				
<b>進め方</b>	テキストに沿って知識の導入→講師が実演→ロールプレイによる練習→翌回に知識の定着を確認するテストを実施。				
<b>評価方法</b>	① 筆記テスト5回・・・5回の平均点が70点以下の場合は追試します。 ② 実技チェック4回・・・欠席の場合は別日に受けることになるので休まないようにお願いします。 ③ 課題レポート1回				

<b>科目名</b>	患者理解		
<b>講師名</b>	土江 正司	<b>実務経験とその関連資格</b> 現役臨床心理士	
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。 人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。		
<b>授業目的</b>	歯科衛生士は対人援助職としての力量が求められるため、患者に寄り添い、理解する心と技術を学ぶ。また自分の考えを育み、伝えることについて学ぶ。		
<b>使用テキスト</b>	なし		
<b>授業内容</b>	<p>1回目 : 自分の考えを育み伝える 1</p> <p>2回目 : 他者理解について学ぶ 1</p> <p>3回目 : 自分の考えを育み伝える 2</p> <p>4回目 : 他者理解について学ぶ 2</p> <p>5回目 : 自分の考えを育み伝える 3</p> <p>6回目 : 他者理解について学ぶ 3</p> <p>7回目 : 他者を理解し、自分の思いを伝える 1</p> <p>8回目 : 他者を理解し、自分の思いを伝える 2</p>		
<b>授業方法</b>	講義・演習・レポート		
<b>進め方</b>	各回とも、講義と演習を行い、授業の最後にレポートを提出する。		
<b>評価方法</b>	出席およびレポートによって評価する。		

<b>科目名</b>	歯周病予防処置 I																																																																				
<b>講師名</b>	専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士																																																																			
<b>授業時期</b>	1年生 前期 (15回) 後期 (45回)	<b>単位数</b> 単位数 3 (実技 1)	<b>時間数</b> 80分×60回																																																																		
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。          人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。          人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。          生涯学習の態度を養う。</p>																																																																				
<b>授業目的</b>	歯石除去法の知識と技術、及び患者さんに対する態度を習得する。																																																																				
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)																																																																				
<b>授業方法</b>	講義、演習、実習																																																																				
<b>進め方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療人としての身だしなみ、言動について、毎回チェックし、身に着くようにする。</li> <li>・ 1年次の実技では模型を対象に訓練を行う。</li> </ul>																																																																				
<b>評価方法</b>	定期試験、実技試験																																																																				
<b>授業内容</b>	<p>歯周病予防処置 I 1年前期 (15回) 58期生 担当：福原</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯石除去の目的を述べる。</li> <li>・ スケーラーを正しく把持できる。</li> <li>・ 第4指を伸ばした状態で、固定できる。</li> <li>・ スケーラー操作の使用原則を守ることの意義を説明できる。</li> </ul> </td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>月/日(曜)</th> <th>項目</th> <th>実習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/24(月)</td> <td>序説 身だしなみ 歯科予防処置とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5/1(月)</td> <td>スケーラーの構造、把持法</td> <td>スケーラーの把持</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5/8(月)</td> <td>歯石除去に用いられる器具</td> <td>スケーラーの把持</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5/15(月)</td> <td>スケーラー操作の使用原則</td> <td>スケーラーの操作 机上実習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/22(月)</td> <td>スケーラー操作の使用原則を守らなかった場合の弊害</td> <td>石膏棒</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/29(月)</td> <td>歯周組織</td> <td>顎模型</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/31(水)</td> <td>歯肉の健康像・不健康像</td> <td>歯石除去スティック</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6/5(月)</td> <td>歯面への付着物・沈着物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6/7(水)</td> <td>マネキンの取り扱い</td> <td>マネキン実習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>6/12(月)</td> <td>スケーリングの体勢づくり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>6/14(水)</td> <td>デンタルミラーの扱い</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>6/19(月)</td> <td>歯周病の原因</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>6/26(月)</td> <td>実技チェック</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>7/3(月)</td> <td>実技チェック</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>7/10(月)</td> <td>まとめ</td> <td style="text-align: center;">↓ ↓</td> </tr> </tbody> </table>			目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯石除去の目的を述べる。</li> <li>・ スケーラーを正しく把持できる。</li> <li>・ 第4指を伸ばした状態で、固定できる。</li> <li>・ スケーラー操作の使用原則を守ることの意義を説明できる。</li> </ul>	回	月/日(曜)	項目	実習	1	4/24(月)	序説 身だしなみ 歯科予防処置とは		2	5/1(月)	スケーラーの構造、把持法	スケーラーの把持	3	5/8(月)	歯石除去に用いられる器具	スケーラーの把持	4	5/15(月)	スケーラー操作の使用原則	スケーラーの操作 机上実習	5	5/22(月)	スケーラー操作の使用原則を守らなかった場合の弊害	石膏棒	6	5/29(月)	歯周組織	顎模型	7	5/31(水)	歯肉の健康像・不健康像	歯石除去スティック	8	6/5(月)	歯面への付着物・沈着物		9	6/7(水)	マネキンの取り扱い	マネキン実習	10	6/12(月)	スケーリングの体勢づくり		11	6/14(水)	デンタルミラーの扱い		12	6/19(月)	歯周病の原因		13	6/26(月)	実技チェック		14	7/3(月)	実技チェック		15	7/10(月)	まとめ	↓ ↓
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯石除去の目的を述べる。</li> <li>・ スケーラーを正しく把持できる。</li> <li>・ 第4指を伸ばした状態で、固定できる。</li> <li>・ スケーラー操作の使用原則を守ることの意義を説明できる。</li> </ul>																																																																				
回	月/日(曜)	項目	実習																																																																		
1	4/24(月)	序説 身だしなみ 歯科予防処置とは																																																																			
2	5/1(月)	スケーラーの構造、把持法	スケーラーの把持																																																																		
3	5/8(月)	歯石除去に用いられる器具	スケーラーの把持																																																																		
4	5/15(月)	スケーラー操作の使用原則	スケーラーの操作 机上実習																																																																		
5	5/22(月)	スケーラー操作の使用原則を守らなかった場合の弊害	石膏棒																																																																		
6	5/29(月)	歯周組織	顎模型																																																																		
7	5/31(水)	歯肉の健康像・不健康像	歯石除去スティック																																																																		
8	6/5(月)	歯面への付着物・沈着物																																																																			
9	6/7(水)	マネキンの取り扱い	マネキン実習																																																																		
10	6/12(月)	スケーリングの体勢づくり																																																																			
11	6/14(水)	デンタルミラーの扱い																																																																			
12	6/19(月)	歯周病の原因																																																																			
13	6/26(月)	実技チェック																																																																			
14	7/3(月)	実技チェック																																																																			
15	7/10(月)	まとめ	↓ ↓																																																																		

- 目標
- ・確実に歯石を除去するために正しいスクレーラーの操作方法を習得する
  - ・施術部位に合わせた適切な体勢で操作を行う
  - ・診療室、患者に配慮した言動を考え行動する
  - ・炎症の有無を判別できるように健康な歯肉と病的な歯肉の違いを述べる。
  - ・シャープニングの目的、使用方法を習得する。
  - ・歯科機械、消毒薬の適切な使用方法を理解する。

回	日時	内容	場所	
1	8/29	2 小テスト (歯周組織) 机上実習 (スクレーラー操作)	基礎2	
2	8/30	4 マネキン実習 (体勢、ポジション) 7-4 (B)	//	
3	8/31	4 講義 (デンタルミラー) マネキン実習 7-4 (B) 4-7 (L)	//	
4	9/1	4 小テスト マネキン実習 7-4 (B) 4-7 (L)	//	
5	9/4	4 演習 (歯肉縁上歯石・歯肉縁下歯石) 自己チェック	//	
6	9/5	2 小テスト 自己チェック振り返り	//	
7	9/6	4 マネキン実習 (ポジション、体勢) 3-2-1 (La, D) 1-2-3 (La, M)	//	
8	9/7	4 講義 (探針) マネキン実習 3-2-1 (La, D) 1-2-3 (La, M)	//	
9	9/8	4 小テスト マネキン実習 3-2-1 (Li, D) 1-2-3 (Li, M)	//	
10	9/11	4 演習 (歯肉) マネキン実習 3-2-1 (La, M) 1-2-3 (La, D)	//	
11	9/12	2 小テスト マネキン実習 3-2-1 (La, M) 1-2-3 (La, D)	//	
12	9/13	4 演習 (健康な歯肉) マネキン実習 3-2-1 (Li, M) 1-2-3 (Li, D)	//	
13	9/14	4 演習 (炎症がある歯肉) マネキン実習 3-2-1 (Li, M) 1-2-3 (Li, D)	//	
14	9/15	4 実習説明 マネキン実習 3+3	//	
15	9/19	2 口腔内観察実習	//	
16	9/20	4 実習振り返り 自己チェック	//	
17	9/22	3 自己チェック振り返り、マネキン実習 (上顎体勢、ポジション)	//	
18	9/25	4 講義 (屈曲型スクレーラー) 4-7 (B) 曲線、屈曲	//	
19	9/27	1 小テスト マネキン実習 7-4 (P) 4-7 (B) 曲線、屈曲	//	
20	9/29	4 演習 (スクレーラー操作) マネキン実習 7-4 (P) 4-7 (B) 曲線、屈曲	//	
21	10/2	2 小テスト マネキン実習 3-2-1 (La, D) 1-2-3 (La, M)	//	
22	10/4	4 マネキン実習 3-2-1 (P, D) 1-2-3 (P, M)	//	
23	10/6	4 相互実習説明① マネキン実習 3-2-1   1-2-3	//	
24	10/13	4 相互実習説明②	//	
25	10/16	3	相互実習 (患者誘導、体勢作り等)	基礎1
26		4		
27	10/23	4 相互実習 振り返り マネキン実習 3-2-1 (La, M) 1-2-3 (La, D)	基礎2	
28	10/25	4 演習 (基礎知識) マネキン実習 3-2-1 (P, M) 1-2-3 (P, D)	//	
29	10/30	3 小テスト マネキン実習 3-2-1   1-2-3	//	
30	11/1	4 自己チェック マネキン実習 4-7 (P)	//	
31	11/6	3 自己チェック振り返り 7-4 (B) 4-7 (P) 曲線、屈曲	//	
32	11/8	4 相互実習説明③	基礎2、基礎1	
33	11/13	3	相互実習 (口腔内観察、清拭)	基礎1
34		4		
35	11/20	3 相互実習振り返り マネキン実習 7-4 (B) 4-7 (P) 曲線、屈曲	基礎2	
36	11/24	1 相互実習説明④ 実技試験説明	//	
37	11/27	3	相互実習 (口腔内観察、スクレーラー操作)	基礎1
38		4		
39	11/29	2 相互実習振り返り、スクレーラー操作確認	基礎2	
40	11/30	2 体勢、ポジション、スクレーラー操作確認	//	
	12/1	4 実技試験	基礎2、教室	
41	12/4	3 講義 (シャープニング) マネキン実習 7-4 (L)	基礎2	
42	12/8	3 シャープニング実習 マネキン実習 7-4 (L)	//	
43	12/11	4 シャープニング実習 マネキン実習 4-7 (B)	//	
44	12/12	2 マネキン実習 下顎 まとめ	//	
45	12/14	2 マネキン実習 上顎 まとめ	//	



科目名	歯周病予防処置Ⅱ		
講師名	専任	実務経験とその関連資格	歯科衛生士
授業時期	1年生 後期(12回) 2年生 前後期(68回)	単位数 3 (実技1を含む)	時間数 80分×80回
教育目標	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。          人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。          人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。          生涯学習の態度を養う。</p>		
授業目的	口腔の現状を正しく評価し、適切なインスツルメントを選択し、安全に配慮した操作を身につける。		
使用テキスト	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版(医歯薬出版)など		
授業方法	講義・実習		
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互実習を通し、患者への配慮と医療人としての身だしなみ・言動を身につけていく。</li> <li>・マネキン実習で、基礎訓練と相互実習の振り返りを行う。</li> <li>・小テストや実技チェックの時間を設け、自己評価に役立てる。</li> </ul>		
評価方法	筆記試験、実技試験		

## 授業内容

### \*58期生(1年生)

- 目標
- ・口腔内と全身疾患・服薬状況の関連を理解する
  - ・歯周病の進行状態と原因を捉えるために、歯周病検査について理解する
  - ・患者誘導とスケーリングの体勢作りを確実にを行う

回	日時	内容	場所
1	1/24	1 全身疾患と服薬状況の把握	教室
2	1/24	2 歯周病検査(1) 検査目的、歯肉	教室
3	1/26	1 歯周病検査(2) プロービング	教室
4	1/26	2 歯周病検査(3) CAL、根分岐部病変	教室
5	1/29	1 歯周病検査(4) プラーク、歯石	教室
6	1/29	2 相互実習①について	基2
7	1/30	1 相互実習① 歯周病検査 ～歯肉、プラーク、歯石～	基1
8		2	
9	1/31	1 歯周病検査(5)、プロービング	基2
10	1/31	2 実技チェックについて	基1、教室
11	2/2	1 *実技チェック〔患者誘導・体勢作り〕	基1、教室
12	2/2	2 マネキン実習	基2

## \*57期生(2年次)

- 目標
- ・エキスポローリング、プロービングの基本操作を身につける
  - ・安全に除石を行うために、スケーリングの使用原則を守って操作する
  - ・SRPに使用する器具の特徴を理解し、安全に操作する
  - ・口腔の現状を正しく捉え、記録する

1～12回は、1年次に終了

回	日時	内 容	場所
13	4/4	4 マネキン実習	基2
14	4/7	2 相互実習②について	基2
15	4/10	1 相互実習② 歯周病検査 ～プロービング、動揺度～	基1
16		2	
17	4/11	4 相互実習③について	基2
18	4/14	1 相互実習③ (B) $\overline{7\sim4 4\sim7}$ (L)	基1
19		2	
20	4/17	1 実技チェックについて	基2
21	4/21	1 *実技チェック〔プロービング〕	基1、基2
22	4/28	2 *実技チェック〔ポジショニング〕	基1、基2
23	5/1	1 相互実習④について	基2
24	5/8	1 相互実習④ (P) $\underline{7\sim4 4\sim7}$ (B)	基1
25		2	
26	5/22	1 中間試験	
27	5/22	2 マネキン実習	基2
28	5/30	3 スケーリング後の処置 (1)	教室
29	6/5	1 スケーリング後の処置 (2)	基2
30	6/5	2 相互実習⑤について	教室、基1
31	6/12	1 相互実習⑤ スケーリング後の処置	基1
32		2	
33	6/19	1 パワースケーラー (1)	教室
34	6/19	2 パワースケーラー (2)	教室
35	6/21	1 パワースケーラー (3)〔模型実習〕	基1、基2
36		2	
37	6/26	1 相互実習⑥ 超音波スケーリング	基1
38		2	
39	7/3	1 マネキン実習	基2
40	7/4	2 シャープニング (曲線形)	基2
41	7/7	1 相互実習⑦について	基2
42	7/10	1 相互実習⑦ $\underline{3+3}$	基1
43		2	
44	7/11	2 マネキン実習	基2
45	7/14	2 シャープニング (屈曲形)	基2
46	7/19	2 マネキン実習	基2

回	日時	内容	場所	
47	8/31	3	キュレットスケーラー (1)	教室
48	9/1	1	キュレットスケーラー (2)	教室
49	9/4	1	キュレットスケーラー (3)	教室
50	9/5	1	キュレットスケーラー (4)	基2
51	9/8	1	キュレットスケーラー (5)	基2
52	9/8	2	キュレットスケーラー (6)	基2
53	9/13	1	キュレットスケーラー (7)	基2
54	9/13	2	マネキン実習	基2
55	9/14	1	マネキン実習	基2
56	9/19	1	実技チェックについて、シャープニング (曲線形)	基2
57	9/22	1	*実技チェック [除石棒]、プロービング	基2
58		2		
59	9/27	3	PMTC、相互実習⑧について	基2
60	10/6	1	相互実習⑧ PMTC	基1
61		2		
62	10/12	4	PMTC、歯面清掃器	教室
63	10/24	1	相互実習⑨について	基2
64	10/25	1	相互実習⑨ (B) $\overline{7\sim4}   4\sim7$ (P)	基1
65		2		
66	10/26	3	実技試験について	基2
	10/27	1	実技試験	基1
		2		
67	11/2	4	マネキン実習	基2
68	11/10	1	相互実習⑩について	基2
69	11/14	1	相互実習⑩ $\overline{7\sim4}  $ (L)	基1
70		2		
71	11/15	1	保護者スケーリングについて (1)	基2
72	11/20	4	相互実習⑪について	基2
73	11/21	1	相互実習⑪ $\overline{3+3}$	基1
74		2		
75	11/22	3	保護者スケーリングについて (2)	基2
76	12/1	1	《半数》保護者スケーリング	基1
77		2		
78	12/5	1	《半数》知識整理	教室
79		2		
80	12/6	4	保護者スケーリングまとめ	基2

<b>科目名</b>	歯周病予防処置Ⅲ		
<b>講師名</b>	専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士	
<b>授業時期</b>	2年生 後期（9回） 3年生 前・後期（20回）	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×29回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	臨床実習の到達目標に準じ、定期的に基礎訓練を行い問題解決に繋げる。		
<b>使用テキスト</b>	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版（医歯薬出版）など		
<b>授業内容</b>	<p><u>次ページ参照</u></p>		
<b>授業方法</b>	講義・実習（演習、相互実習）		
<b>進め方</b>	<p>① 臨床実習や相互実習を通し、学生の抱える共通課題を取り上げて展開する。</p> <p>② 各自が実技の到達度を知ること、課題や目標をもって実習に取り組む。</p>		
<b>評価方法</b>	相互実習を通し、「実習態度」「技術」「安全性」について評価する。		

### 歯周病予防処置Ⅲ

2年次 1月～ (57期生)

担当：小野

《目標》

- ・安全で効率の良い施術ができるために、基本姿勢を身につける。(ポジショニングの徹底 など)
- ・ミラーを有効に使用し、施術野の確保ができる。
- ・正しい固定をとり、適正角度でスケーリングができる。

回数	時	内 容	場所	準備
1	12/19	4 スケーリング 介助業務について: 拭取り、受渡し	基礎2	スケーリングセット
2	12/20	1 相互実習①の目標・練習	基礎2	スケーリングセット
3		2 介助業務 演習	基礎1	
4	12/22	1 相互実習①: スケーリング	基礎1	相互実習スタイル
5		2 (介助者: 拭取り、受渡し)		
6	1/11	1 相実①の振返り	基礎2	スケーリングセット
7		2 相実②の目標・練習 シャープニング		シャープニングセット
8	2/1	1 相互実習② : プロービング	基礎1	相互実習スタイル
9		2		

3年次 前期・後期 (56期生)

《目標》・臨床実習の到達目標に準じ、定期的に基礎訓練を行い問題解決に繋げる

1年次に「相互実習②」まで終了

回数	時	内 容	場所	準備
1	4/13	1 基本の確認: スケーリング、プロービング、シャープニング	基礎2	スケーリング・シャープニングセット
2	4/20	1 相互実習③: スケーリング・プロービング	基礎1	相互実習スタイル
3		2		
4	5/1	2 相実③: 振返り 相実④: 予習	基礎2	スケーリングセット
5	5/2	1 相互実習④: ポリッシング	基礎1	相互実習スタイル
6		2		
7	6/1	1 相実④: 振返り 相実⑤: 予習 シャープニング	基礎2	スケーリング・シャープニングセット
8	6/8	1 相互実習⑤: スケーリング(超音波 SC・シッケル SC)	基礎1	相互実習スタイル
9		2		
10	6/22	3 相実⑤: 振返り 知識整理	基礎2	スケーリングセット
11	7/20	1 基本操作のチェック シャープニング	基礎2	スケーリング・シャープニングセット
12	8/24	1 基本の復習 相実⑥: 予習	基礎2	スケーリングセット
13	8/29	3 相互実習⑥: スケーリング・プロービング	基礎1	相互実習スタイル
14		4		
15	9/28	2 相実⑥: 振返り 相実⑦: 予習 シャープニング	基礎2	スケーリングセット、シャープニングセット
16	10/12	1 相互実習⑦: スケーリング(超音波 SC・シッケル SC)	基礎1	相互実習スタイル
17		2		
18	10/26	1 相実⑧: 予習 キュレットスケーラーの取扱い	基礎2	スケーリングセット
19	11/2	1 相互実習⑧: スケーリング(超音波 SC・キュレット SC)	基礎1	相互実習スタイル
20		2		

<b>科目名</b>	う蝕予防処置																																																																
<b>講師名</b>	専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士																																																															
<b>授業時期</b>	1年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×15回																																																														
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>																																																																
<b>授業目的</b>	<p>う蝕の発生要因を理解し、う蝕予防における歯科衛生士の役割を理解する。</p> <p>各処置法の目的、効果、安全性、術式について理解し、安全で確実な処置ができる。</p>																																																																
<b>使用テキスト</b>	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)																																																																
<b>授業内容</b>																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日時</th> <th>内容</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8/30(水) ①</td> <td>総論 う蝕予防とは</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9/6(水) ①</td> <td>う蝕の理解</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>9/13(水) ①</td> <td>う蝕活動性試験</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9/20(水) ①</td> <td>う蝕活動性試験実習 (DentcultSM、RDテスト、唾液分泌量)</td> <td>検査室</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10/16(月) ②</td> <td>フッ素の知識</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>10/23(月) ②</td> <td>フッ素応用時の安全性</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>10/31(火) ①</td> <td>〃</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11/14(火) ①</td> <td>綿球法・トレイ法・歯ブラシ法</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>11/20(月) ③</td> <td>フッ化物局所応用法実習 歯ブラシ法</td> <td rowspan="2">基礎Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>11/21(火) ①</td> <td>小窩裂溝填塞法</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>11/28(火) ①</td> <td>小窩裂溝填塞法実習・課題</td> <td rowspan="2">基礎Ⅱ/教室</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>12/6(水) ③</td> <td>イオン導入法・洗口法</td> <td>教室</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>12/12(火) ①</td> <td>フッ化物配合歯磨剤・まとめ</td> <td>教室</td> </tr> </tbody> </table>			回	日時	内容	場所	1	8/30(水) ①	総論 う蝕予防とは	教室	2	9/6(水) ①	う蝕の理解	教室	3	9/13(水) ①	う蝕活動性試験	教室	4	9/20(水) ①	う蝕活動性試験実習 (DentcultSM、RDテスト、唾液分泌量)	検査室	5	10/16(月) ②	フッ素の知識	教室	6	10/23(月) ②	フッ素応用時の安全性	教室	7	10/31(火) ①	〃	教室	8	11/14(火) ①	綿球法・トレイ法・歯ブラシ法	教室	9	11/20(月) ③	フッ化物局所応用法実習 歯ブラシ法	基礎Ⅱ	10	④		11	11/21(火) ①	小窩裂溝填塞法	教室	12	11/28(火) ①	小窩裂溝填塞法実習・課題	基礎Ⅱ/教室	13	②		14	12/6(水) ③	イオン導入法・洗口法	教室	15	12/12(火) ①	フッ化物配合歯磨剤・まとめ	教室
回	日時	内容	場所																																																														
1	8/30(水) ①	総論 う蝕予防とは	教室																																																														
2	9/6(水) ①	う蝕の理解	教室																																																														
3	9/13(水) ①	う蝕活動性試験	教室																																																														
4	9/20(水) ①	う蝕活動性試験実習 (DentcultSM、RDテスト、唾液分泌量)	検査室																																																														
5	10/16(月) ②	フッ素の知識	教室																																																														
6	10/23(月) ②	フッ素応用時の安全性	教室																																																														
7	10/31(火) ①	〃	教室																																																														
8	11/14(火) ①	綿球法・トレイ法・歯ブラシ法	教室																																																														
9	11/20(月) ③	フッ化物局所応用法実習 歯ブラシ法	基礎Ⅱ																																																														
10	④																																																																
11	11/21(火) ①	小窩裂溝填塞法	教室																																																														
12	11/28(火) ①	小窩裂溝填塞法実習・課題	基礎Ⅱ/教室																																																														
13	②																																																																
14	12/6(水) ③	イオン導入法・洗口法	教室																																																														
15	12/12(火) ①	フッ化物配合歯磨剤・まとめ	教室																																																														
<b>授業方法</b>	講義・実習																																																																
<b>進め方</b>	<p>齲蝕予防における基礎知識を理解する。</p> <p>各処置法については実習を通して有効で安全な手段を学ぶ。</p>																																																																
<b>評価方法</b>	試験																																																																

科目名	歯科診療補助 I		
講師名	専任	実務経験とその関連資格 歯科衛生士	
授業時期	1年生 前期・後期	単位数 2 (実技1)	時間数 80分×48回
教育目標	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>		
授業目的	<p>歯科診療補助を行うにあたり、必要な基礎知識と技術を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科診療補助業務を理解する。</li> <li>・ 医療安全のために感染予防についての知識と方法について習得する。</li> <li>・ 材料の性質を十分に理解し、正しい取り扱いを習得する。</li> <li>・ 器械、材料の用途を知り、安全で正しい取り扱い方を習得する。</li> </ul>		
使用テキスト	<p>歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」・「歯科材料」・「歯科機器」(医歯薬出版)など</p>		
授業内容	<p><u>次ページ参照</u></p>		
授業方法	講義・実習		
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「院内感染予防」については講義中心となるが、相互実習に繋がる基本的考えを習得する。</li> <li>・ 材料は、使用目的や性質などを理解したうえで、正しい取り扱いを習得する。 (主用材料の取り扱いは、<b>実技試験</b>で評価する)</li> <li>・ 器材は用途を知り、安全で正しい取り扱い方を習得する。</li> </ul>		
評価方法	筆記試験 実技試験		

## 2023年度 歯科診療補助 I (58期生)

※教科書の準備について・・・「歯科診療補助」は毎回、「歯科材料」「歯科機器」はテーマに応じて準備する

回数	日時	内容	担当	場所	準備
1	4/12	4 歯科診療補助 概念	小野	教室	診療補助
2	4/14	4 院内感染予防[1]・・・医療安全、感染の理解	小野	教室	診療補助
3	4/19	4 院内感染予防[2]・・・標準予防策、リスクアセスメント	小野	教室	診療補助
4	4/21	4 院内感染予防[3]・・・手指消毒、洗浄	小野	教室	診療補助
5	4/26	4 院内感染予防[4]・・・滅菌方法①	小野	教室	診療補助
6	4/28	4 院内感染予防[5]・・・滅菌方法②	小野	教室	診療補助
7	5/10	4 院内感染予防[6]・・・薬液消毒(条件、種類、抗菌スペクトル)	小野	教室	診療補助
8	5/12	4 院内感染予防[7]・・・薬液消毒(種類、特徴)、その他の消毒法	小野	教室	診療補助
9	5/17	4 院内感染予防[8]・・・感染性廃棄物、感染予防のまとめ	小野	教室	診療補助
10	6/2	4 歯科診療における基礎知識(設備)	小野	教室	診療補助
11	6/9	4 模型材[1]・・・模型材について	谷口	教室	診療補助
12	6/14	3 模型材[2]・・・普通石膏の取り扱い、有歯顎模型の作製	谷口	基礎2	診療補助
13	6/15	1 模型材[3]・・・混水比について	谷口	基礎2	診療補助
14	6/16	4 合着・接着材[1]・・・目的、種類と性質、ポリカルボキシルセメント	小野	基礎2	診療補助
15	6/23	4 合着・接着剤[2]・・・ガラスイオノマーセメント	小野	基礎2	診療補助
16	6/28	4 合着・接着材[3]・・・リン酸亜鉛セメント	小野	基礎2	診療補助
17	6/30	4 合着・接着材[4]・・・接着性レジンセメント、セメント練和練習	小野	基礎2	診療補助
18	7/5	4 合着・接着材[5]・・・理工学的性質、練和練習	小野	基礎2	診療補助
19	7/7	4 合着・接着材[6]・・・まとめ、練和練習	小野	基礎2	診療補助
20	7/12	4 合着・接着材[7]・・・練和チェック	小野	基礎2	診療補助
21	8/28	4 歯牙解剖演習(1)	小野	教室	歯の解剖
22	8/29	1 歯牙解剖演習(2)	小野	教室	歯の解剖
23	8/31	2 歯牙解剖演習(3)	小野	基礎2	歯の解剖
24	9/1	3 歯牙解剖演習(4)	小野	基礎2	歯の解剖
25	9/4	3 歯牙解剖演習(5)	小野	基礎2	歯の解剖
26	9/6	2 仮封材[1]・・・目的、水硬性仮封材	小野	基礎2	診療補助
27	9/8	3 仮封材[2]・・・ストップング、ストップングキャリアーの取り扱い	小野	基礎2	診療補助
28	9/11	3 仮封材[3]・・・酸化亜鉛ユーヅノールセメント	小野	基礎2	診療補助
29	9/14	2 仮封材[4]・・・復習、カルボン酸系セメント、サンダラック	小野	基礎2	診療補助
30	9/15	3 仮封材[5]・・・レジン仮封材、まとめ(仮封方法)	小野	基礎2	診療補助



回数	日時		内容	担当	場所	準備
31	9/25	3	歯科用チェアユニット[1]・・・ユニットの取扱い 演習	小野	教室・基礎1	診療補助
32	10/2	3	歯科用チェアユニット[2]・・・術者、補助者、患者のポジショニング 演習	小野	教室・基礎1	診療補助
33	10/5	4	印象材[1]・・・印象材の分類と性質	小野	基礎2	診療補助
34	10/6	3	《半数》印象材[2]アルジネート印象材①・・・取扱い、練和操作	谷口	基礎2	診療補助
35	10/11	4	《半数》実技チェック・・・セメント練和 (1)	小野	検査室	練習用セメント
36	10/23	3	《半数》印象材[3]アルジネート印象材②・・・印象採得(回転トレー)	谷口	基礎2	診療補助
37	10/26	4	《半数》実技チェック・・・セメント練和 (2)	小野	検査室	練習用セメント
38	10/30	2	《半数》印象材[4]アルジネート印象材③・・・印象採得(回転トレー)、石膏注入	谷口	基礎2	診療補助
39	11/6	2	《半数》印象材[5]連合印象①・・・寒天・アルジネート連合印象	小野	検査室	診療補助
40	11/9	4	《半数》印象材[6]アルジネート印象材④・・・採得の手順、印象評価	谷口	基礎2	診療補助
41	11/13	2	《半数》印象材[7]連合印象②・・・寒天・アルジネート連合印象、フォーハンド	小野	検査室	診療補助
42	11/15	4	《半数》印象材[8]アルジネート印象材⑤・・・印象採得(上顎)	谷口	基礎2	診療補助
43	11/20	2	《半数》印象材[9]連合印象③・・・シリコーンゴム印象材	小野	検査室	診療補助
44	11/27	2	《半数》印象材[10]アルジネート印象材⑥・・・印象採得(下顎)	谷口	基礎2	診療補助
45	12/4	2	《半数》印象材[11]連合印象④・・・シリコーンゴム印象材	小野	検査室	診療補助
46	12/11	2	印象材[12]・・・アルジネート印象材⑦・・・練和練習	谷口	基礎2	診療補助
実試	12/13	3	実技試験・・・アルジネート印象材の練和	谷口	基礎2	
47	12/14	4	印象材[13]・・・各種印象材(ユージャーナル・コンパウンド)、まとめ①(採得方法)	小野	検査室	診療補助
48	12/15	4	印象材[14]・・・まとめ②(性質)	小野	検査室	診療補助

歯科診療補助Ⅱ 2024. 1～

回数	時		内容	担当	場所	準備
1	1/24	4	口腔内写真[1]・・・目的、使用器材	小野	基礎2	診療補助
2	1/25	1	口腔内写真[2][3]	小野	基礎2	診療補助
3		2	カメラの取扱い、演習			
4	1/29	3	口腔内写真[4][5]	小野	基礎2	診療補助
5		4	撮影実習(マネキン)			
6	1/30	3	口腔内写真[6][7]	小野	基礎1	相実スタイル
7		4	撮影実習(相互実習)			
8	2/1	4	口腔内写真[8]・・・写真評価、まとめ	小野	基礎2	診療補助

科目名	歯科診療補助Ⅱ		
講師名	専任	実務経験とその関連資格 歯科衛生士	
授業時期	1年生 後期（8回） 2年生 前期・後期（69回）	単位数 3 （実技1）	時間数 80分×77回
教育目標	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>		
授業目的	<p>歯科診療補助を行うにあたり、必要な基礎知識と技術を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な治療が行われるように、治療内容と術式を習得する。</li> <li>・器材準備ができるように、器具の名称と使用目的を習得する。</li> <li>・器械、器材の用途を知り、安全で正しい取り扱い方を習得する。</li> <li>・材料の取り扱いを習熟する。</li> </ul>		
使用テキスト	<p>最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版・「歯科材料」・「歯科機器」 （医歯薬出版） 関連科目教科書</p>		
授業内容	<p><u>次ページ参照</u></p>		
授業方法	講義・実習		
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料は、使用目的や性質などを理解したうえで、正しい取り扱いを習得する。 （主用材料の取り扱いは、<b>実技試験</b>で評価する）</li> <li>・器材準備は講義中心になるが、できるだけ使用器材を見たり、触れたりする機会を設ける。</li> <li>・器材準備は各分野毎にチェックを行い、理解度を確認しながら進行する。</li> </ul>		
評価方法	筆記試験 実技試験		

2023 年度 歯科診療補助Ⅱ（57 期生）

※教科書の準備について…「歯科診療補助」は毎回、「歯科材料」「歯科機器」はテーマに応じて準備する

回数	日 時	内 容	担当	場所	準備	
1	4/5	1	器材準備<口腔外科①>…普通抜歯	小 野	基礎 2	口腔外科
2	4/7	1	器材準備<口腔外科②>…難抜歯	小 野	基礎 2	口腔外科
3	4/10	4	器材準備<口腔外科③>…抜歯鉗子、注意	小 野	基礎 2	口腔外科
4	4/12	1	器材の取扱い[1]…注射器、麻酔時の注意	松 田	基礎 2	口腔外科
5	4/18	1	器材の取扱い[2]…注射器・縫合器の取扱い	松 田	基礎 2	口腔外科
6	4/19	1	器材準備<口腔外科④>…歯槽整形、器材整理	小 野	基礎 2	口腔外科
7	4/24	1	バキューム[1]	小 野	基礎 2	診療補助
8	4/28	1	器材準備<口腔外科⑤>…消炎手術（切開・排膿法）	小 野	基礎 2	口腔外科
9	5/9	1	切削装置・切削具[1]	松 田	基礎 2	歯科機器
10	5/10	2	バキューム[2]	小 野	基礎 2	診療補助
11	5/12	1	≪半数≫：歯科診療補助（半数：保健指導）	小 野	基礎 1	相美スタイル
		2	バキューム[3][4]…相互実習			
12	5/15	1	≪半数≫：歯科診療補助（半数：保健指導）	小 野	基礎 1	相美スタイル
		2	バキューム[3][4]…相互実習			
13	5/17	2	切削装置・切削具[2]	松 田	基礎 2	歯科機器
14	5/24	2	器材準備<口腔外科⑥>…口腔インプラント	小 野	教室	口腔外科
15	6/6	1	器材準備<口腔外科⑦>…まとめ、器材チェック	小 野	基礎 2	口腔外科
16	6/12	3	器材準備<歯周外科①>…ホケット搔爬	小 野	基礎 2	歯周治療
17	6/13	1	器材準備<歯周外科②>…ENAP、歯肉切除	小 野	基礎 2	歯周治療
18	6/16	2	器材準備<歯周外科③>…FOP、歯周パック	小 野	基礎 2	歯周治療
19	6/20	1	器材準備<歯周外科④>…GTR、エムドゲイン	小 野	基礎 2	歯周治療
20	6/21	3	器材準備…外科処置の歯科衛生士の役割、服薬指導	小 野	基礎 2	
21	6/23	2	器材準備<歯内療法①>…歯内治療の流れ、歯髄鎮痛消炎療法	小 野	基礎 2	保存歯内
22	6/27	1	器材準備<歯内療法②>…覆髄法	小 野	基礎 2	保存歯内
23	6/28	2	器材準備<歯内療法③>…歯髄切断法	小 野	基礎 2	保存歯内
24	6/29	1	器材準備<歯内療法④>…抜髄法	小 野	基礎 2	保存歯内
25	7/3	2	器材準備<歯内療法⑤>…感染根管治療	小 野	基礎 2	保存歯内
26	7/4	1	ラバーダム防湿[1]	松 田	基礎 2	診療補助
27	7/5	3	ラバーダム防湿[2]	松 田	基礎 2	診療補助
28	7/6	2	器材準備<歯内療法⑥>…根管充填[1]	小 野	基礎 2	保存歯内
29	7/11	1	器材準備<歯内療法⑦>…根管充填[2]、フローチ①	小 野	基礎 2	保存歯内
30	7/12	2	器材準備<歯内療法⑧>…外科的歯内療法、フローチ綿花②	小 野	基礎 2	保存歯内
31	7/14	1	器材準備<歯内療法⑨>…歯内療法まとめ、器材チェック	小 野	基礎 2	保存歯内
32	7/18	4	保存・歯内療法における検査[1]	小 野	教室	保存歯内
33	7/19	1	保存・歯内療法における検査[2]	小 野	基礎 2	保存歯内
34	7/20	2	保存・歯内療法における検査[3]	小 野	基礎 2	保存歯内

回数	日 時	内 容	担当	場所	準備	
35	9/1	2	プロビジョナルレストレーション作製[1]	松 田	基礎 2	補綴
36	9/6	1	《半数》 プロビジョナルレストレーション作製[2]	松 田	基礎 2	補綴
37	9/7	3	《半数》 器材準備<鑄造修復①>…インレー作製	小 野	検査室	保存・補綴
38	9/11	1	器材準備<鑄造修復②>…クラウン作製、歯肉圧排	小 野	検査室	診療補助
39	9/15	1	成形修復[1]…レジン修復①	谷 口	基礎 2	保存歯内
40	9/20	3	《半数》 成形修復[2]…レジン修復②	谷 口	基礎 2	保存歯内
41	9/21	4	《半数》 器材準備<歯科補綴①>…床義歯作製	小 野	検査室	補綴
42	9/22	4	《半数》 成形修復[3]…レジン修復③	谷 口	基礎 2	保存歯内
43	9/26	2	《半数》 器材準備<歯科補綴②>…床義歯の取扱い	小 野	検査室	補綴
44	9/27	4	《半数》 成形修復[4]…レジン修復④	谷 口	基礎 2	保存歯内
45	9/29	3	《半数》 器材準備<補綴③>…材料の取扱い(印象材、ワックス、歯肉圧排)	小 野	検査室	補綴
46	10/2	4	成形修復[5]…グラスアイオノマーセメント修復	谷 口	基礎 2	保存歯内
47	10/11	1	《半数》 成形修復[6]…修復の研磨・隔壁・歯間分離	谷 口	基礎 2	保存歯内
48	10/12	3	《半数》 器準<矯正①>…マルチブラケット装置(器材)、放射線実習説明①	小 野	検査室	矯正
49	10/13	3	歯科放射線実習[1] 概論	蒲池先生	教室	放射線
50	10/18	1	器材準備<歯科矯正②>…マルチブラケット装着、撤去、放射線実習説明②	小 野	基礎 2	矯正
51	10/20	3	歯科放射線実習[2]	蒲池先生	各実習室	放射線
52	10/25	3	器材準備<小児歯科①>	小 野	教室	診療補助
53	10/27	3	歯科放射線実習[3]	蒲池先生	各実習室	放射線
54	10/30	4	器材準備<小児歯科②>	小 野	教室	診療補助
55	11/1	3	歯科衛生士がかかわる医科疾患患者[1]…全身疾患①	小 野	教室	診療補助
56	11/2	3	歯科衛生士がかかわる医科疾患患者[2]…全身疾患②	小 野	教室	診療補助
57	11/6	4	歯の配列演習 ①	小 野	基礎 2	
58	11/8	3	材料の取扱い[1]…アルジネット印象材の練和	谷 口	基礎 2	
実試	11/9	3	実技試験…アルジネット印象材の練和	谷 口	基礎 2	
59	11/10	3	歯科放射線実習[4]	蒲池先生	各実習室	放射線
60	11/17	3	歯科放射線実習[5]	蒲池先生	基礎 2	放射線
61	11/22	4	歯の配列演習②	小 野	基礎 2	診療補助
62	11/24	2	歯科衛生士がかかわる医科疾患患者[3]…周術期	小 野	教室	診療補助
63	11/24	3	歯科放射線実習[6]	蒲池先生	基礎 1・2	放射線
64		4	歯科放射線実習[7](エックス線写真の読み取り)			
65	11/30	3	材料の取扱い[2]…印象採得実習(マネキン:上顎)	谷 口	基礎 2	
66	12/1	3	材料の取扱い[3]…印象採得実習(マネキン:下顎)	谷 口	基礎 2	
67	12/4	4	材料の取扱い[4]…合着材、仮封材(仮封操作)	小 野	検査室	練習用セメント
68	12/6	3	器材準備の整理	小 野	基礎 2	
試験	12/8	1	器材試験	小 野	基礎 2	
		2				
69	12/11	3	材料の取扱い[5]…セメントの練和チェック	小 野	検査室	練習用セメント

<b>科目名</b>	歯科診療補助Ⅲ		
<b>講師名</b>	専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士	
<b>授業時期</b>	2年生 後期（9回） 3年生 前後期（20回）	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×29回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	<p>2年次) 臨床予備実習・臨床実習に備えて、技術を再確認する。</p> <p>3年次) 臨床の場における歯科衛生士の役割を理解し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療内容を理解し、術式に応じた器材を準備する。</li> <li>・患者の安全に配慮した診療補助業務を身につける。</li> <li>・感染予防策に関する知識を習得する。</li> </ul>		
<b>使用テキスト</b>	授業内容に応じる		
<b>授業内容</b>	<p><u>次ページ参照</u></p>		
<b>授業方法</b>	講義・実習		
<b>進め方</b>	臨床実習到達目標に準じて、実践的な講義・実習を行う。 適宜、実技チェック等を行い、自己評価できるようにする。		
<b>評価方法</b>	出席、実技試験結果等、総合的に評価する。		

\*57 期生(2 年生)

回	日時	内 容	担当	場所
1	1/5	2 バキューム、術者磨き	小野	基 2
2	1/9	1 相互実習	小野	基 1
3		2 【バキューム、術者磨き】		
4	1/10	1 義歯着脱、セメント練和	小野	基 2
5	1/10	2 対合印象	松田	基 2
6	1/18	1 相互実習	松田	基 1
7		2 【対合印象】		
8	2/8	1 咽頭部の吸引	清水先生 谷口	基 2
9		2		

\*56 期生(3 年生) 1~9 回は、2 年次に終了

回	日時	内 容	担当	場所
9	4/27	1 実技試験	松田	基 2
		2 【セメント、アルジネートの練和】		
10	5/1	3 相互実習	小野	基 1
11		4 【バキューム】		
12	5/18	1 相互実習	松田	基 1
13		2 【印象採得】		基 2
14	6/1	3 注射器・ブローチ綿花の取り扱い	松田	基 2
15		4		
16	6/22	1 仮封材の取り扱い	松田	基 2
17	7/13	3 器材準備①	松田	基 2
18		4		
19	7/20	3 ヒヤリハット	福原	教室
20		4		

回	日時	内 容	担当	場所
21	8/25	1 ≪半数≫相互実習【X線撮影】	永松先生 福原	基 1
22		2		
23	8/28	1 ≪半数≫プロビ作製・仮着	松田	基 2
24		2		
25	8/30	2 相互実習【レジン仮封】	松田	基 2
26	9/7	1 器材準備②	松田	基 2
27		2		
28	9/21	1 試験 【器材準備】	松田	
		2		
28	10/26	2 歯科矯正まとめ	小野	教室
29	11/9	2 院内感染予防まとめ	小野	教室

<b>科目名</b>	社会保険業務																																																																						
<b>講師名</b>	専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士																																																																					
<b>授業時期</b>	2年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×16回																																																																				
<b>教育目標</b>	正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。																																																																						
<b>授業目的</b>	歯科保険請求の実務に必要な知識を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主な疾患の治療方針や治療の流れを理解する。</li> <li>・症例をもとにカルテ用語を理解し、処置内容を読み取る。</li> <li>・医療保険、診療報酬の仕組みについて理解する。</li> </ul>																																																																						
<b>使用テキスト</b>	「歯科保険請求マニュアル 令和4年版～歯の知識と請求の実務～」(医歯薬出版)																																																																						
<b>授業内容</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>日時</th> <th>内容</th> <th>他の教科書</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9/4 2</td> <td>歯の硬組織疾患</td> <td>保存</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9/6 4</td> <td>症例1【コンポジットレジン修復】</td> <td>保存</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>9/11 2</td> <td>症例2【メタルインレー修復】</td> <td>保存</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9/12 1</td> <td>歯髄疾患</td> <td>歯内</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>9/20 1</td> <td>症例3【抜髄→根管治療→根管充填】</td> <td>歯内</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>9/25 2</td> <td>根尖性歯周組織疾患</td> <td>歯内</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>9/27 1</td> <td>症例4【感染根管治療】</td> <td>歯内</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>10/2 2</td> <td>修復物・補綴物の分類</td> <td>保存、補綴</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>10/5 1</td> <td>症例5【クラウン治療】</td> <td>補綴</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>10/16 2</td> <td>症例6【抜歯、旧義歯の増歯、義歯】</td> <td>補綴</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>10/23 2</td> <td>歯周治療</td> <td>歯周病</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>10/25 4</td> <td>歯周治療</td> <td>歯周病</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>10/30 2</td> <td>口腔粘膜疾患、ライフステージ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>11/13 2</td> <td>保険診療の流れ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>11/20 2</td> <td>医療保険の種類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>11/24 1</td> <td>レセプトの提出</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回	日時	内容	他の教科書	1	9/4 2	歯の硬組織疾患	保存	2	9/6 4	症例1【コンポジットレジン修復】	保存	3	9/11 2	症例2【メタルインレー修復】	保存	4	9/12 1	歯髄疾患	歯内	5	9/20 1	症例3【抜髄→根管治療→根管充填】	歯内	6	9/25 2	根尖性歯周組織疾患	歯内	7	9/27 1	症例4【感染根管治療】	歯内	8	10/2 2	修復物・補綴物の分類	保存、補綴	9	10/5 1	症例5【クラウン治療】	補綴	10	10/16 2	症例6【抜歯、旧義歯の増歯、義歯】	補綴	11	10/23 2	歯周治療	歯周病	12	10/25 4	歯周治療	歯周病	13	10/30 2	口腔粘膜疾患、ライフステージ		14	11/13 2	保険診療の流れ		15	11/20 2	医療保険の種類		16	11/24 1	レセプトの提出	
回	日時	内容	他の教科書																																																																				
1	9/4 2	歯の硬組織疾患	保存																																																																				
2	9/6 4	症例1【コンポジットレジン修復】	保存																																																																				
3	9/11 2	症例2【メタルインレー修復】	保存																																																																				
4	9/12 1	歯髄疾患	歯内																																																																				
5	9/20 1	症例3【抜髄→根管治療→根管充填】	歯内																																																																				
6	9/25 2	根尖性歯周組織疾患	歯内																																																																				
7	9/27 1	症例4【感染根管治療】	歯内																																																																				
8	10/2 2	修復物・補綴物の分類	保存、補綴																																																																				
9	10/5 1	症例5【クラウン治療】	補綴																																																																				
10	10/16 2	症例6【抜歯、旧義歯の増歯、義歯】	補綴																																																																				
11	10/23 2	歯周治療	歯周病																																																																				
12	10/25 4	歯周治療	歯周病																																																																				
13	10/30 2	口腔粘膜疾患、ライフステージ																																																																					
14	11/13 2	保険診療の流れ																																																																					
15	11/20 2	医療保険の種類																																																																					
16	11/24 1	レセプトの提出																																																																					
<b>授業方法</b>	講義																																																																						
<b>進め方</b>	教科書や配布資料に沿って進める。 毎回小テストを行う。																																																																						
<b>評価方法</b>	筆記試験																																																																						

<b>科目名</b>	歯科保健指導Ⅰ～Ⅲ		
<b>講師名</b>	専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士	
<b>授業時期</b>	1年生 前期・後期 2年生 前期・後期 3年生 前期・後期	<b>単位数</b> 1年次 2 2年次 3（実技1） 3年次 1	<b>時間数</b> 1年生 80分×48回 2年生 80分×106回 3年生 80分×44回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>他職種と連携・協働するための資質を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	歯や口の健康を支援するために必要な知識と技術を習得すると同時に、支援者としての姿勢をつくる。		
<b>使用テキスト</b>	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版） その他の教科書		
<b>授業内容</b>	<p><u>次ページ参照</u></p>		
<b>授業方法</b>	講義・演習・実習		
<b>進め方</b>	基本的知識の習得は、講義形式で行うが、より理解を深めるためのものや臨床能力を必要とするものについては、演習や実習を取り入れる。		
<b>評価方法</b>	期末試験 提出物及びリポートによる評価 実技試験		



## 歯科保健指導 I 1年次前期・後期

《目標》う蝕、歯周病予防に必要な基礎知識と自身の口腔の健康管理方法を理解する。

### 単元 1 歯科保健指導とは何か

担当：和田

一般目標 ・保健指導の定義を理解する。

回	日・時限	内容	教室	備考（準備する教科書等）
1	4.13④	保健指導とは何か（定義、行動変容支援）	教室	歯科予防処置論・歯科保健指導論準備

### 単元 2 う蝕と歯周病の予防法：歯の汚れ（特にプラーク）とその除去方法を理解する。

担当：石橋

一般目標 ・汚れの種類とその病原性を理解する。

・磨き残しやすい場所やその原因を知り、効果的な歯みがき方法と清掃用具を理解する。

回	日・時限	内容	教室	備考（準備する教科書等）	
2	4.20④	歯の汚れの種類と病原性 プラークの観察と形成過程	検査室	保健生態学、歯科予防処置論・歯科保健指導論準備、位相差顕微鏡使用	
3	4.27④	口腔内観察の方法、記録の仕方 （歯列、修復、補綴物、う蝕の図示、歯式の記入など） （口腔内状態の図示方法、歯式の書き方）		口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学準備	
4	5.11④	口腔内観察（各自の口腔・上顎前歯唇側）（実習①） プラーク染色の目的、注意点 マーキングの方法、注意点、清潔不潔の区別		リップクリーム、 歯ブラシ、コップ、 タオル、洗濯ばさみ等 の準備	
5	5.18④	口腔内観察（各自の口腔・下顎前歯唇舌側）（実習②） 磨き残しの原因と効果的なプラークの落とし方			
6	5.25④	口腔内観察（各自の口腔・下顎）（実習③） 磨き残しの原因と効果的なプラークの落とし方			
7	6.13③	口腔内観察（各自の口腔・上顎）（実習④） 磨き残しの原因と効果的なプラークの落とし方			
8	6.20③	磨き残しの原因と効果的なプラークの落とし方 （実習⑤）			
9	6.20④	（各自の口腔・上下顎）			
10	6.29①	磨き残しの原因と効果的なプラークの落とし方④			リップクリーム等の準備
11	6.29②	（相互実習・上下顎） 歯ブラシ調査について説明			夏期休暇中に調査研究し、8/29提出
12	7.4④	磨き残しの原因と効果的なプラークの落とし方・まとめ （実習）			これまでに提出した プリント準備
13	7.6①	毛先みがき実技チェック			歯ブラシ、コップ準備
14	7.6②				
15	7.7①	プラーク染色剤種類など 歯の汚れと記録（OHI、オレリーのPCR）		保健生態学、薬理学、 歯科予防処置論・歯科 保健指導論準備	
18	9.21③	歯ブラシ調査まとめ（KJ法）、発表		検査室	各自の調査結果
19	9.21④				

担当：和田

**単元 3 う蝕予防**

一般目標 ・歯周病のセルフケア支援に必要な基本的知識（発症要因とメカニズム、リスク因子、予防方法）を理解する。

回	日・時限	内容	教室	備考（準備する教科書等）		
16	8.28②	う蝕の定義、う蝕発生メカニズム	教室	う蝕予防処置のプリント、歯科予防処置論・歯科保健指導論、微生物学、保健生態学、栄養と代謝教科書準備		
17	9.4②	う蝕発生メカニズム				
20	10.2①	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ①口腔細菌				
21	10.12④	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ①口腔細菌				
23	10.20④	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ②宿主及び歯				
24	10.27④	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ②宿主及び歯				
26	11.10③	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ③発酵性糖質				
27	11.17③	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ③発酵性糖質				
28	11.22④	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ③発酵性糖質				
29	11.24③	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 代用甘味料（キシリトールの効果） 味覚形成、食品表示				
30	11.29④	う蝕の発症要因の特徴と予防方法 ④再石灰化促進 フッ化物洗口				
31	12.1①	う蝕発生要因の特徴と予防方法 ④再石灰化促進 フッ化物配合歯磨剤				
32	12.5②	う蝕発生要因の特徴と予防方法 ④再石灰化促進 再石灰化促進物質 エビデンスに基づいたう蝕予防				
33	12.6④	う蝕リスク評価 演習① う蝕経験からみるリスク評価				
34	12.8①	う蝕リスク評価 演習①				
35	12.12④	う蝕リスク評価 演習②（情報の整理、書面化）				
36	12.13②	う蝕リスク評価 演習②（各自） 評価（アセスメント）				
37	12.14①	う蝕リスク評価 演習②（各自） 評価発表・修正				
22	10.18④	<b>2年生の臨地実習発表評価：う蝕の成りたちと予防について</b>				1.2年生合同

**単元 4-1 歯周病予防-1**

担当：石橋

一般目標 ・歯周病のセルフケア支援に必要な基本的知識（発症要因とメカニズム、原因と予防方法）を理解する。

回	日・時限	内容	教室	備考（準備する教科書等）
25	11.2②	<b>2年生の臨地実習発表評価：歯周病の成りたちと予防について</b>		1.2年生合同
38	1.5②	歯周病の定義、健康な歯周組織像の確認 ・歯肉炎と歯周炎の違い ・歯周病の原因（細菌因子）	教室	歯科予防処置論・歯科保健指導論、保健生態学、歯周病学の教科書、歯周治療学プリント
39	1.9①	歯周組織破壊のメカニズム、歯周病の分類（プラークの関与）		
40	1.9②	プラークコントロール、歯周治療の基本、歯周病の原因（局所性初発因子）		
41	1.10①	歯周病の原因（局所修飾因子）とその予防方法①		
42	1.10②	歯周病の原因（局所修飾因子）とその予防方法②		
43	1.11①	歯周病の原因（局所修飾因子）とその予防方法③		
44	1.11②	歯周病の原因（局所修飾因子）とその予防方法④		
45	1.12①	歯周病の原因（局所修飾因子）とその予防方法⑤		
46	1.12②	歯周病の原因（局所修飾因子）とその予防方法⑥		
47	1.15①	歯周病の原因（機能的、全身性修飾因子）とその除去		
48	1.15②	歯周病のメンテナンス		

**歯科保健指導Ⅱ 1年次**

担当：石橋

**単元 4-2 歯周病予防-2**

一般目標 ・個別性に配慮したセルフケア支援ができるようになるために、歯周病のリスクと病態・予防方法について理解する。

回	日・時限	内容	教室	備考（準備する教科書等）
1	1.25④	歯周病のリスク評価①（リスク評価の意義、細菌性因子）	教室	歯周病学 保健生態学 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論
2	1.26③	歯周病のリスク評価②（喫煙）		
3	1.26④	歯周病のリスク評価③（糖尿病）		
4	1.31③	発症のメカニズムの整理、歯周病医学		
5	1.31④	歯周病の評価（状態の観察、アセスメント） 演習①（口腔内観察）	基礎	2
6	2.1①	歯周病の評価（状態の観察、アセスメント） 演習①（修飾因子の観察）	2	
7	2.1②	歯周病の評価（状態の観察、アセスメント） 演習①書面化		
8	2.2③	歯周病の評価（状態の観察、アセスメント） 演習①発表、修正、提出	教室	

## 歯科保健指導Ⅱ 2年次前期・後期

《目標》 ライフステージごとの歯科保健の特徴と健康支援に必要な基本的知識と技術を身につける。

### 単元 5 ライフステージごとの歯科保健

一般目標 ・ライフステージごとの地域保健の施策と歯科保健指導のポイントを理解する。

担当：谷口・石橋・和田

回	日・時限	内容	場所	備考（準備する教科書等）
1	4.5②	地域保健における歯科医療従事者の位置づけ	教室	担当：石橋  保健生態学、小児歯科学、歯科予防処置論・歯科保健指導論の教科書
2	4.11③	<b>妊産婦</b> の歯科保健（ポイント、う蝕・歯周疾患予防）		
3	4.12②	〃（歯科治療時期、歯の形成に必要な栄養素）		
4	4.14③	<b>乳幼児期</b> の歯科保健（歯科保健のポイント） （歯の萌出と早期萌出歯への対応）		
5	4.17②	〃（萌出時期）		
6	4.18②	〃（味覚形成と摂食機能の発達）		
7	4.19②	〃（う蝕予防）		
8	4.24②	〃（う蝕予防、乳歯保護の重要性）		
9	4.26②	〃（口腔習癖、外傷への対応、）		
10	5.2①	母子保健施策（妊産婦健診）		
11	5.12	乳幼児期の歯科保健（仕上げ磨き <b>相互実習</b> ）	歯科 診療補助 と 2部授業	講堂  ユニホーム、予防衣、グローブ、ゴーグル
12	①② 5.15 ①②			
13	5.16①	母子保健施策（1歳6ヶ月児健診）	教室	保健生態学、小児歯科学、歯科予防処置論・歯科保健指導論の教科書
14	5.19④	〃（1歳6ヶ月児、3歳児健診）		
15	5.22④	〃（3歳児健診）		
16	5.23①	<b>学齢期</b> の歯科保健（第一大臼歯のう蝕予防）	検査室	担当：谷口  保健生態学、歯科予防処置論・歯科保健指導論の教科書
17	5.29④	〃（第一大臼歯、初期う蝕予防）		
18	6.5④	〃（脱灰観察の演習、歯肉炎予防、歯肉炎観察の演習）		
19	6.12④	〃（歯肉炎観察演習、永久歯列・咬合育成、健康本21）		
20	6.13④	〃（脱灰、炎症の <b>観察実習</b> 、学齢期の歯科保健演習）		
21	6.14①	<b>青年期</b> の口腔内の特徴と歯科保健のポイント		
22	6.19④	<b>成人期</b> の歯科保健（口腔内の特徴、歯科保健のポイント）		
23	6.20④	〃（う蝕予防、歯周病予防、補綴物の保健管理） 歯間ブラシの使用指導チェックの説明		
24	6.26③	〃（補綴物の保健管理：補綴処置の重要性、ブリッジ）	検査室 教室	保健生態学、歯科補綴学、歯周病学、歯科口腔外科学、歯科予防処置論・歯科保健指導論の教科書
25	6.26④	〃（補綴物の保健管理：歯を失った場合の口腔の問題）		
26	6.27③	〃 歯間ブラシの使用指導の確認（ <b>実習</b> ）	検査室 教室	保健生態学、歯科補綴学、歯周病学、歯科口腔外科学、歯科予防処置論・歯科保健指導論の教科書
27	6.27④	課題：インプラント周囲組織スケッチ、口臭のプリント記入		
28	6.28①	〃（補綴物の保健管理：歯を失った場合の口腔の問題）	教室	歯科予防処置・歯科保健指導論、保健生態学、歯科衛生士と法律制度、保存修復
29	7.3④	〃（補綴物の保健管理：インプラント）		
30	7.4④	〃（口腔軟組織疾患の保健管理）		
31	7.5①	〃（口臭、歯の損耗）		
32	7.5②	〃（歯肉退縮）		
33	7.7②	〃（歯科に関する地域保健施策と保健事業）		
34	7.10④	〃（歯科に関する地域保健施策と保健事業） NCDs		

回	日・時限	内容	場所	備考 (準備する教科書等)
47	9.7①	<b>老年期・要介護者の</b> 歯科保健 ① (高齢化率の変化、高齢者の特性)	教室	担当：和田  高齢者歯科学、 保健生態学、 歯科補綴学、 摂食嚥下リハビリテ-ション 歯周病学 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論 歯科口腔外科学 栄養と代謝
48	9.8③	② (全身疾患と口腔の問題)		
49	9.11④	③ (全身疾患と口腔の問題)		
50	9.12②	④ (全身疾患と口腔の問題)		
51	9.13④	⑤ (全身状態の評価)		
52	9.14②	⑥ (栄養状態の特徴、栄養評価)		
53	9.15③	⑦ (栄養評価、低栄養の要因)		
54	9.15④	⑧ (フレイル、オーラルフレイル)		
55	9.19②	⑨ (残存歯の歯科保健管理)		
56	9.20④	⑩ (残存歯の歯科保健管理、補綴物の歯科保健管理)		
57	9.21①	⑪ (補綴物の歯科保健管理)		
58	9.22③	⑫ (補綴物の歯科保健管理・義歯清掃)	検査室	
59	9.25④	⑬ (義歯清掃演習、口腔軟組織の歯科保健管理)	教室	
60	9.26①	⑭ (口腔軟組織の歯科保健管理)		
61	9.28①	⑮ (咽頭部の吸引と法律、口腔乾燥症に対する歯科保健)		
62	9.28②	⑯ (口腔乾燥症に対する歯科保健)		
63	9.29①	⑰ (口腔機能低下症)		
64	9.29②	⑱ (口腔機能低下症)		
67	10.4①	⑲ (誤嚥性肺炎予防、嚥下過程)		
68	10.4④	⑳ (誤嚥性肺炎予防、全身疾患)		
70	10.6④	㉑ (誤嚥性肺炎予防、摂食嚥下リハビリテーション)		
77	10.16④	㉒ (誤嚥性肺炎予防、摂食嚥下リハビリテーション)		
85	11.6②	㉓ (誤嚥性肺炎予防、食事指導) 指導用チャート作成：谷口		
89	11.27④	㉔ (誤嚥性肺炎予防、食形態)		
92	11.30①	㉕ (保健制度)		
93	11.30②	㉖ (保健制度) 高齢者の生活の場		
94	12.4②	㉗ 演習		
96	12.8③	<b>歯科矯正者の</b> 歯科保健	教室	担当：谷口  小児歯科学、 歯科矯正学
97	12.8④	〃		
98	12.11①	〃		
99	12.11②	〃		
95	12.5④	<b>成人期</b> の歯科保健：脱灰ハリスク者へのブラッシング指導 (実習)	基礎 2	
試験	12.6①	<b>実技試験</b>	基礎 1、2	担当：和田
〃	12.6②	〃		

## 単元 6 集団に対する歯科保健指導

### 一般目標

- ・地域の健康づくり支援に必要なヘルスプロモーションの理論を理解する。
- ・学校歯科保健の場での行動変容、ライフスキルに視点を置いた関わり方について理解する。

回	日・時限	内容	場所	備考 (準備する教科書等)
35	7.12①	集団指導の場となる地域保健活動とは 学校保健の中での保健指導の位置づけ、PP モデル	教室	担当：和田  保健生態学 歯科予防処置論・ 歯科保健指導論
36	7.13①	保健行動の3因子		
37	7.18①	学校における保健指導の位置づけ、保健指導の特性と心構え 学校において歯科保健指導の指針となるもの「生きる力」「食育」		
38	7.18②	学習指導要領「生きる力(ライフスキル)」とは		
39	7.19③	歯みがきの基本 演習「食育」		
40	7.20①	歯科からの「食育」 健康教育法(問題発見・問題解決学習法、参加型学習法) 演習		

回	日・時限	内容	場所	備考	
65	10.3①	揖屋小学校準備・練習		担当：谷口	
66	10.3②	〃			
<b>69</b>	<b>10.5②</b>	<b>歯科保健指導特別講義（多田先生）</b>			
71	10.10①	〃			
72	10.10②	〃			
73	10.11③	〃			
74	10.11④	〃			
臨地実習①	10.12①	揖屋小学校リハーサル			
臨地実習②	10.12②	揖屋小学校リハーサル			
75	10.13①	城北小準備・練習			担当：石橋
76	10.13②	〃			
78	10.17①	〃			
79	10.17②	〃			
80	10.18③	〃			
臨地実習③	10.18④	城北小学校リハーサル		1、2年生合同	
臨地実習④	10.20①	城北小学校リハーサル			
臨地実習⑤	10.20②	城北小学校リハーサル			
81	10.26①	城北小学校準備・練習			
82	10.26②	〃			
83	10.31①	〃			
臨地実習⑥	10.31②	城北小学校リハーサル			
臨地実習⑦	11.1①	城北小学校リハーサル			
臨地実習⑧	11.1②	城北小学校リハーサル			
84	11.2①	城北小学校準備・練習			
臨地実習⑨	11.2②	城北小学校リハーサル		1、2年生合同	
86	11.7①	城北小学校準備・練習			
臨地実習⑩	11.7②	城北小学校リハーサル			
臨地実習⑪	11.8①	城北小学校リハーサル			
臨地実習⑫	11.8②	城北小学校リハーサル			
臨地実習⑬	11.9①	城北小学校リハーサル			
臨地実習⑭	11.9②	城北小学校リハーサル			
87	11.15③	城北小学校準備・練習			
88	11.15④	〃			
臨地実習	11.16	城北小学校（午前：実習 午後：まとめ・揖屋小学校準備）			
臨地実習⑮	11.17①	揖屋小学校リハーサル	担当：谷口		
臨地実習⑯	11.17②	揖屋小学校リハーサル			
臨地実習⑰	11.22①	揖屋小学校リハーサル			
臨地実習⑱	11.22②	揖屋小学校リハーサル			
90	11.28①	揖屋小学校準備・練習			
91	11.28②	〃			
臨地実習	11.29	揖屋小学校（午前：実習 午後：まとめ、片付け）			

## 単元 7 保健行動支援のための基礎知識

- 一般目標
- ・行動変容に関する理論を理解する。
  - ・動機づけ面接のスキルを理解する。

回	日・時限	内容	場所	備考
41	8.31②	健康獲得行動	教室	担当：和田  心理学、 歯科医療倫理、 歯科予防処置論・歯科 保健指導論の教科書
42	9.1③	コミュニケーションスキル		
43	9.1④	コミュニケーションスキル		
44	9.4④	行動変容に関する理論（健康信念モデル、学習理論）		
45	9.5②	行動変容に関する理論（社会的認知理論：自己効力感）		
46	9.6③	行動変容に関する理論（行動変容ステージモデル）		

## 歯科保健指導Ⅲ 2年次

### 単元 8 歯科衛生過程

一般目標 ・ 歯科衛生過程を理解する。

担当：和田

回	日・時限	内容	場所	備考
1	12.19③	歯科衛生過程とは、構成要素、意義 う蝕指導用チャート評価	教室	歯科予防処置論・ 歯科保健指導論
2	12.20④	歯科衛生過程の構成と過程それぞれの目的		
3	12.21①	歯科衛生過程の構成要素とそれぞれの目的		
4	12.21②	演習①：歯科衛生アセスメント（情報の分類・整理・解釈・分析）		
5	12.22③	演習①：〃		
6	12.22④	演習①：〃		
7	1.5③	演習①：〃		
8	1.5④	演習①：〃		
9	1.9④	演習①：〃		
10	1.25①	演習①：〃		
11	1.25②	演習①：歯科衛生診断		
12	1.26③	演習①：歯科衛生診断		
13	1.26④	演習①：歯科衛生計画立案（優先順位決定）		
14	2.15①	演習①：歯科衛生計画立案（目標・歯科衛生計画）		
15	2.22①	演習②：歯科衛生アセスメント		
16	2.29①	演習②：歯科衛生アセスメント		
17	2.29②	演習②：歯科衛生診断		
18	3.7①	演習②：歯科衛生診断		

### 歯科保健指導Ⅲ 3年次前期・後期

《目標》臨床実習と演習を通しアセスメントとコミュニケーションの実践力を身につける。

#### 単元 9 歯科衛生過程（業務記録・アセスメント）

- 一般目標
- ・業務記録能力を身につける。
  - ・歯科衛生アセスメント力を身につける。

担当：和田

回	日・時限	内 容	教室	備考
1	4.5④	歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断演習③	教室	歯科予防処置論・歯科保健指導論  <b>学習のワード</b> 炎症性修飾因子、フッ化物配合歯磨剤、歯槽骨吸収エックス線像、口腔乾燥、保湿剤、歯肉増殖、歯肉退縮、アブフラクション、喫煙の害、歯周病との関連 BP系製剤 など
2	4.6④	〃		
3	4.13②	〃		
4	4.27③	歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断演習④		
5	5.1①	業務記録 書き方 演習①（1回目）		
6	5.2③	業務記録 書き方 演習①（2回目）		
7	5.11①	業務記録 書き方 演習①（3回目）		
8	5.18③	歯科衛生実地指導（文書提供）		
試験	5.25①	歯科衛生過程（総論・業務記録） 60分		

#### 単元 10 保健行動支援の基礎知識2

- 一般目標
- ・行動変容の理論を活用した対話法を身につける。

担当：和田

回	日・時限	内 容	教室	備考
9	5.18④	行動変容に関する理論（復習）	教室	歯科予防処置論・歯科保健指導論、心理学教科書、2年次のコミュニケーションスキルプリント
11	6.8③	行動変容を促す理論の実践（ストレスとストレス・コーピング）		
12	6.15②	〃（認知行動療法）（動機づけ面接基礎知識）		
13	8.24②	〃（コミュニケーションスキル復習）		
14	8.30①	動機、欲求を顕在化する対話 演習① Q1～4		
15	8.30④	〃（動機づけ面接 ウェイトコントロール症例の解説）		
18	9.21③	〃（動機づけ面接 ウェイトコントロール症例の解説） Q5		
19	9.28③	〃（動機づけ面接 動画・解説） Q5		
20	10.5①	〃（動機づけ面接 演習① 例文にOARS、チェンジトークを書込む）		
21	10.5②	〃（動機づけ面接 演習② 対話シミュレーション①		
22	10.12③	〃（動機づけ面接 演習② 対話シミュレーション②		
23	10.26①	〃（動機づけ面接 演習② 対話シミュレーション③		
24	11.2③	〃（動機づけ面接 演習③ 対話シミュレーション①		
25	11.2④	〃（動機づけ面接 演習③ 対話シミュレーション②		
26	11.9①	〃（動機づけ面接 演習③ 対話シミュレーション② 提出		

#### 単元 11 指導者としての基本的態度

- 一般目標
- ・指導者としての基本的態度を身につける。
  - ・基本的なブラッシング指導能力を身につける。

担当：和田

回	日・時限	内 容	教室	備考
16	8.28③	歯周病の状態の説明 （歯周組織断面図、エックス線写真使用）	基礎2	ユニホーム、予防衣、顎模型
17	8.28④	ブラッシング指導		
試験	8.29①	実技試験	基礎1、2 教室	
〃	8.29②	〃		

<b>科目名</b>	歯科衛生総説 I																																						
<b>講師名</b>	各講師	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師・歯科衛生士																																					
<b>授業時期</b>	1年生 前期・後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×18回																																				
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>																																						
<b>授業目的</b>	歯科衛生に関する基礎知識を復習し、整理する。																																						
<b>使用テキスト</b>	各科目教科書																																						
<b>授業内容</b>	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>物理化学の基礎</td> <td>10</td> <td>薬理学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人体の解剖・生理</td> <td>11</td> <td>微生物学</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歯科衛生学総論</td> <td>12</td> <td>口腔微生物学</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>口腔の解剖</td> <td>13</td> <td>口腔衛生学 I</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>歯・口腔の生理</td> <td>14</td> <td>衛生・公衆衛生学</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>組織・発生</td> <td>15</td> <td>歯周病予防処置</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>栄養学</td> <td>16</td> <td>う蝕予防処置</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>病理学</td> <td>17</td> <td>歯科保健指導</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>口腔病理学</td> <td>18</td> <td>歯科診療補助</td> </tr> </table>			1	物理化学の基礎	10	薬理学	2	人体の解剖・生理	11	微生物学	3	歯科衛生学総論	12	口腔微生物学	4	口腔の解剖	13	口腔衛生学 I	5	歯・口腔の生理	14	衛生・公衆衛生学	6	組織・発生	15	歯周病予防処置	7	栄養学	16	う蝕予防処置	8	病理学	17	歯科保健指導	9	口腔病理学	18	歯科診療補助
1	物理化学の基礎	10	薬理学																																				
2	人体の解剖・生理	11	微生物学																																				
3	歯科衛生学総論	12	口腔微生物学																																				
4	口腔の解剖	13	口腔衛生学 I																																				
5	歯・口腔の生理	14	衛生・公衆衛生学																																				
6	組織・発生	15	歯周病予防処置																																				
7	栄養学	16	う蝕予防処置																																				
8	病理学	17	歯科保健指導																																				
9	口腔病理学	18	歯科診療補助																																				
<b>授業方法</b>	講義																																						
<b>進め方</b>	理解が不足している範囲を重点的に講義する。																																						
<b>評価方法</b>	成績評価（試験）はレポートとする。																																						



<b>科目名</b>	歯科衛生総説Ⅱ		
<b>講師名</b>	各講師	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師	
<b>授業時期</b>	3年生 前期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×8回
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	歯科衛生の実践に必要な知識を歯科臨床に関連付けて理解する。		
<b>使用テキスト</b>	「徹底分析！年度別 歯科衛生士国家試験問題集」 各内容に関連する教科書		
<b>授業内容</b>			
	①②③	歯科補綴学	歯科補綴治療における歯科衛生士の役割
	④	保存修復学	保存修復における歯科衛生士の役割
	⑤	歯内療法学	歯内療法における歯科衛生士の役割
	⑥	歯周治療学	歯周治療における歯科衛生士の役割
	⑦	歯科薬理学	歯科臨床における歯科薬理学
	⑧	高齢者歯科	高齢者の歯科治療における歯科衛生士の役割
<b>授業方法</b>	講義		
<b>進め方</b>	歯科衛生士国家試験問題を歯科臨床に関連付けて講義する。		
<b>評価方法</b>	筆記試験		

<b>科目名</b>	歯科衛生総説Ⅲ																												
<b>講師名</b>	各講師	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科医師、他																											
<b>授業時期</b>	3年生 後期	<b>単位数</b> 1	<b>時間数</b> 80分×26回																										
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>																												
<b>授業目的</b>	歯科衛生実践に向けて知識整理をし、総合的な力を身につける。																												
<b>使用テキスト</b>	「徹底分析！年度別 歯科衛生士国家試験問題集」 各内容に関連する教科書																												
<b>授業内容</b>																													
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 生物学</td> <td style="width: 50%;">14 小児歯科学</td> </tr> <tr> <td>2 生理学、口腔生理学</td> <td>15 高齢者歯科学</td> </tr> <tr> <td>3 人体の解剖・生理 A</td> <td>16 障がい者歯科学</td> </tr> <tr> <td>4 口腔の解剖</td> <td>17 摂食嚥下リハビリテーション</td> </tr> <tr> <td>5 組織・発生</td> <td>18 臨床検査</td> </tr> <tr> <td>6 微生物学</td> <td>19 衛生・公衆衛生学</td> </tr> <tr> <td>7 病理、口腔病理学</td> <td>20 口腔衛生学Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>8 保存修復学</td> <td>21 衛生行政・社会福祉</td> </tr> <tr> <td>9 歯内療法学</td> <td>22 歯科放射線学</td> </tr> <tr> <td>10 歯科補綴学</td> <td>23 歯周病予防処置</td> </tr> <tr> <td>11 歯周治療学</td> <td>24 う蝕予防処置</td> </tr> <tr> <td>12 歯科矯正学</td> <td>25 歯科診療補助</td> </tr> <tr> <td>13 口腔外科学</td> <td>26 歯科保健指導</td> </tr> </table>				1 生物学	14 小児歯科学	2 生理学、口腔生理学	15 高齢者歯科学	3 人体の解剖・生理 A	16 障がい者歯科学	4 口腔の解剖	17 摂食嚥下リハビリテーション	5 組織・発生	18 臨床検査	6 微生物学	19 衛生・公衆衛生学	7 病理、口腔病理学	20 口腔衛生学Ⅱ	8 保存修復学	21 衛生行政・社会福祉	9 歯内療法学	22 歯科放射線学	10 歯科補綴学	23 歯周病予防処置	11 歯周治療学	24 う蝕予防処置	12 歯科矯正学	25 歯科診療補助	13 口腔外科学	26 歯科保健指導
1 生物学	14 小児歯科学																												
2 生理学、口腔生理学	15 高齢者歯科学																												
3 人体の解剖・生理 A	16 障がい者歯科学																												
4 口腔の解剖	17 摂食嚥下リハビリテーション																												
5 組織・発生	18 臨床検査																												
6 微生物学	19 衛生・公衆衛生学																												
7 病理、口腔病理学	20 口腔衛生学Ⅱ																												
8 保存修復学	21 衛生行政・社会福祉																												
9 歯内療法学	22 歯科放射線学																												
10 歯科補綴学	23 歯周病予防処置																												
11 歯周治療学	24 う蝕予防処置																												
12 歯科矯正学	25 歯科診療補助																												
13 口腔外科学	26 歯科保健指導																												
<b>授業方法</b>	講義																												
<b>進め方</b>	歯科衛生士国家試験問題を歯科衛生実践に関連付けて講義する。																												
<b>評価方法</b>	筆記試験																												

科目名	臨地・臨床実習（2年生）		
講師名	実習指導者・専任	実務経験とその関連資格	歯科衛生士
授業時期	2年生（前期・後期）	単位数	4 総時間数 187 時間
教育目標	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。</p> <p>人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。</p> <p>人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。</p> <p>生涯学習の態度を養う。</p>		
授業目的	<p><b>歯科衛生士としての自覚と態度、基本的技術を身につける。</b></p> <p>臨床見学：実習生としての基本的態度を身につける。 臨床科目の理解を深める。</p> <p>臨床実習：歯科治療に関する知識の整理と体系化を行う。</p> <p>臨地実習：医療者としてまた、臨床の場にふさわしい態度を身につける。 発達年齢とその口腔内の状態に即した歯科保健のポイントを理解する。 集団に対する健康教育の方法や注意点を理解する。 主体的行動変容を促すコミュニケーションスキルを理解する。</p>		
使用テキスト	<p>最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）</p> <p>歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」第3版（医歯薬出版）</p>		
<b>授業内容</b>			
臨床見学	<p>臨床実習機関の見学（半日：午前中） 午後：学校でまとめ</p> <p>前期 5月中旬から2週間に1回 合計3日間</p>		
臨床実習	<p>臨床実習機関の見学（半日：午前中） 午後：学校でまとめ</p> <p>後期 1月中旬から2週間（月、火、水、金）合計8日</p> <p>1日中見学</p> <p>後期 2月上旬から約5週間（月、火、水、金）合計18日</p>		
臨地実習	<p>城北小学校実習：健康教育（半日：午前中） 午後：まとめ</p> <p>揖屋小学校実習：健康教育（半日：午前中） 午後：まとめ</p> <p>※実習リハーサル 80分×18回</p> <p>基本的な知識や準備等については、歯科保健指導2で行う。</p>		
授業方法	実習		
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 半日臨床見学を行い、午後は学校で各自が知識整理を行う。</li> <li>・ 臨地実習では小グループを各学生が担当し、指導者としての関わりを経験できるようにする。</li> <li>・ 臨地実習ごとに態度やコミュニケーション、環境、関わり方について自己評価と考察をしながら進める。</li> <li>・ 健康教育のリハーサル後、自己、他者評価を繰り返し実施する。</li> </ul>		
評価方法	<p>臨床実習：出席、レポート又は日誌の提出。</p> <p>臨地実習：出席、実習後の自己評価と考察の提出など。</p>		

## R5 年度臨床実習まとめ・実習説明 (57 期生)

### 2 年次

回	実施予定日		内容	担当
1、2	1/12	③④	臨床実習まとめ	松田
3、4	1/15	③④	臨床実習まとめ	松田
5、6	1/16	③④	臨床実習まとめ	松田
7、8	1/17	③④	臨床実習まとめ	松田
9、10	1/19	③④	臨床実習まとめ	松田
11、12	1/22	③④	臨床実習まとめ	松田
13、14	1/23	③④	臨床実習まとめ	松田
15、16	1/24	③④	臨床実習まとめ	松田

### 3 年次

回	実施予定日		内容	担当
1、2	12/19	①②	臨床実習まとめノート作り説明	福原
3	12/20	③	センター実習説明	谷口
4	12/21	③	感染予防説明	和田
5	1/5	①	臨床実習説明	福原
6、7	1/10	③④	臨床実習説明	福原
8、9	1/11	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
10、11	1/18	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
12、13	1/25	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
14	1/26	①	臨床実習説明	福原
15、16	2/1	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
17、18	2/8	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
19、20	2/15	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
21、22	2/22	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
23、24	2/29	③④	臨床実習まとめ	松田
25、26	3/7	③④	実習評価・臨床実習まとめ	松田

\*まとめの時間は予定が変更になる場合があります。

日直は次の週の予定と準備物について担当教員に確認してください。

<b>科目名</b>	臨地・臨床実習（3年生）		
<b>講師名</b>	実習指導者・専任	<b>実務経験とその関連資格</b> 歯科衛生士	
<b>授業時期</b>	3年生（前期・後期）	<b>単位数</b> 16	<b>総時間数</b> 723.5時間
<b>教育目標</b>	<p>正確で安全な歯科医療ができる知識と技術を培う。  人を総合的に理解し、個々に応じた健康支援ができる広い視野を養う。  他職種と連携・協働するための資質を養う。  人を思いやり、慈愛の精神をもって接する姿勢を育む。  生涯学習の態度を養う。</p>		
<b>授業目的</b>	<p><b>歯科衛生士としての自覚と態度、基本的技術を身につける。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「医療人」としての態度を身につける。</li> <li>・ 歯科診療に関する知識の整理と体系化を行う。</li> <li>・ 歯科衛生士業務に必要な基本的技術を身につける。</li> <li>・ 健康に対する自分の考えを確立し、ライフステージに応じた口腔の健康管理能力を養う。</li> </ul> <p><b>口腔保健センター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害に合わせた配慮の仕方を知る。</li> <li>・ コミュニケーションの取り方を知る。</li> </ul> <p><b>特別養護老人ホーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険施設における歯科衛生士の役割を理解する。</li> </ul>		
<b>使用テキスト</b>			
<b>授業内容</b>	<p>1. <u>実習期間</u>      <u>前期：4月上旬～7月下旬</u>・<u>後期：9月上旬～11月中旬</u></p> <p>(1) 歯科診療所及び総合病院において臨床実習：7.5時間×96日間（月、火、水、金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科診療の補助・介助（器材準備、印象材、セメント練和、バキューム、対合歯の印象採得、仮封材の除去等）</li> <li>・ 歯科予防処置（歯周病診査、スケーリング等）</li> <li>・ 歯科保健指導（口腔観察、アセスメント、ブラッシング指導等）</li> <li>・ 歯科衛生ケアの見学実習、口腔ケアプラン作成、口腔ケアの実践、業務記録作成実習など</li> </ul> <p>(2) 口腔保健センター実習：3.5時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者の歯科診療の見学及び介助を行う。</li> </ul> <p>(3) 特別養護老人ホーム：2日間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科衛生士が実践する口腔健康管理を見学(手伝い)する。</li> </ul> <p>(4) 臨床実習説明</p> <p>(5) 臨床実習まとめ：80分×71回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価能力を身につける（臨床実習振り返りや自己分析を行う）</li> <li>・ 知識や基本的技術を補う。（小テスト・自己学習・講義・基礎実習）</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>内容は次ページ</b></p>		
<b>授業方法</b>	実習		
<b>進め方</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日見学した事、実習した事を基に日誌を書き、理解を深める。</li> <li>・ 実習機関ごとに、知識・技術・態度の行動目標を挙げて実習に臨む。</li> <li>・ 実習経験が必要なものについては、決められたケースをクリアする。</li> <li>・ 週1回の臨床実習まとめで臨床実習が充実するように補う。</li> </ul>		
<b>評価方法</b>	出席、実習評価、レポート・実習記録表の提出と評価		

## R5 年度臨床実習まとめ・実習説明（56期生）

回	実施予定日		内容	担当
1,2	12/15	①②	臨床実習説明	福原
3	12/20	①	臨床実習説明	福原
4		②	センター実習説明	谷口
5	12/21	③	臨床実習まとめノート作り説明	福原
6	1/10	③	感染予防説明	和田
7,8	1/12	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
9,10	1/19	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
11	1/26	①	臨床実習説明	福原
12, 13	2/2	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
14, 15	2/9	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
16, 17	2/16	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
18, 19	3/2	③④	センター実習/臨床実習まとめ	松田
20, 21	3/8	③④	実習評価・臨床実習まとめ	松田
22	4/4	①	臨床実習説明	福原
23,24,25		②③④	臨床実習まとめ	福原
26	4/5	②	自己分析	福原
27	4/6	①	松江記念病院実習説明	内藤先生・森脇さん
28		②	レポートの書き方・院内感染説明・課題説明	福原・小野・松田
29		③	松江記念病院実習説明	和田
30,31	4/13	③④	センター実習/臨床実習まとめ	福原
32	4/20	③	すまいる苑実習説明	北村さん
33		④	特別養護老人ホーム説明	和田
34	4/27	④	トレーナー講話	田中先生・福原
35	5/2	④	島根大学・県立中央病院実習説明	福原
36	5/11	④	実習評価・臨床実習まとめ	福原
37	5/25	②	アナウンサー講話	森山先生・石橋
38		③	実習評価・臨床実習まとめ	福原
39	6/15	④	実習評価・臨床実習まとめ	福原
40	6/22	②	災害	松田先生
41	6/29	④	実習評価・臨床実習まとめ	福原
42	7/6	②	自己分析	福原
43	7/13	①	臨床実習まとめ（証明写真撮影）	福原
44	7/20	②	アナウンサー講話	森山先生・石橋
45,46,47	7/28	②③④	実習評価・臨床実習まとめ	福原
48,49	8/23	③④	臨床実習まとめ	福原
50	8/24	③	エックス線実習説明	福原
51		④	臨床実習まとめ	福原
52,53	8/25	③④	臨床実習まとめ	福原
54	8/30	③	臨床実習まとめ	福原
55,56	9/7	③④	臨床実習まとめ	福原
57	9/21	④	臨床実習まとめ	福原
58,59	9/28	①④	臨床実習まとめ	福原
60,61	10/5	③④	実習評価・臨床実習まとめ	福原
62	10/12	④	実習評価・臨床実習まとめ	福原
63	10/26	③	実習評価・臨床実習まとめ	福原
64,65	11/9	③④	実習評価・臨床実習まとめ	福原
66,67	11/21	①②	実習評価・臨床実習まとめ	福原
68,69	11/22	①②	臨床実習まとめ	福原
70,71	11/24	①②	臨床実習まとめ	福原

\*実習先が変わる日は必ず引継ぎをしましょう。

\*まとめの時間は予定が変更になる場合があります。

日直は次の週の予定と準備物について担当教員に確認してください。

